

令和5年度「まちかどコメンテーター」 アンケート調査結果 ＜抜粋版＞

鹿児島市

・第1回

- 1 体重に関する意識と減塩の取組みについて（保健予防課）
- 2 中心市街地の活性化について（産業政策課）

目 次

I	調査の概要	1
II	体重に関する意識と減塩の取組みについて.....	4
III	中心市街地の活性化について	18

I 調査の概要

1. まちかどコメンテーターの概要

(1) まちかどコメンテーターとは

市民の皆様に「まちかどコメンテーター」になってもらい、市民目線の意見・提言を聴取するとともに、市民のニーズを把握し、市政運営の参考とさせていただくものです。

また、アンケートを通じて、市民の皆様の市政への関心・興味を深めていただくことも目的としています。

(2) まちかどコメンテーターの選定方法

市内に住むか、通勤・通学する 18 歳以上の方を対象とし、一般公募及び住民基本台帳から無作為抽出した市民 2,500 人への就任依頼において、応募・承諾いただいた方により構成しています。

(3) 任期

令和 5 年 6 月 1 日～令和 6 年 5 月 31 日

(4) 人数

401 人（第 1 回調査実施時点）

(5) 所管課

市民局 市民文化部 市民協働課

2. 第1回調査の概要

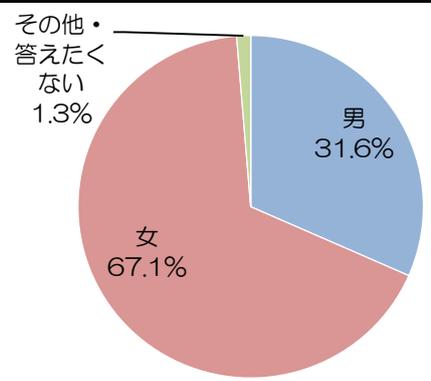
(1) 調査概要

テーマ/担当課	体重に関する意識と減塩の取組みについて	保健予防課
	中心市街地の活性化について	産業政策課
調査期間	令和5年6月5日～6月23日	
回答率	95.5% (383人)	

(2) 回答者属性

① 性別

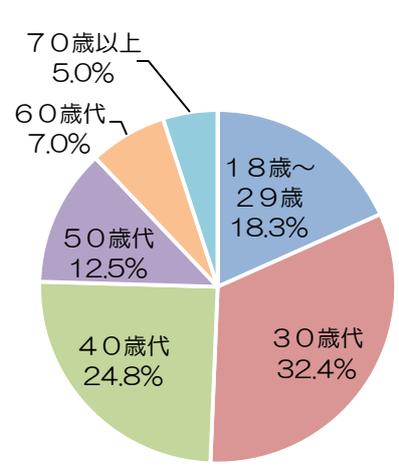
選択肢	回答数	割合
男	121	31.6%
女	257	67.1%
その他・答えたくない	5	1.3%
無回答	0	0.0%
サンプル数	383	100.0%



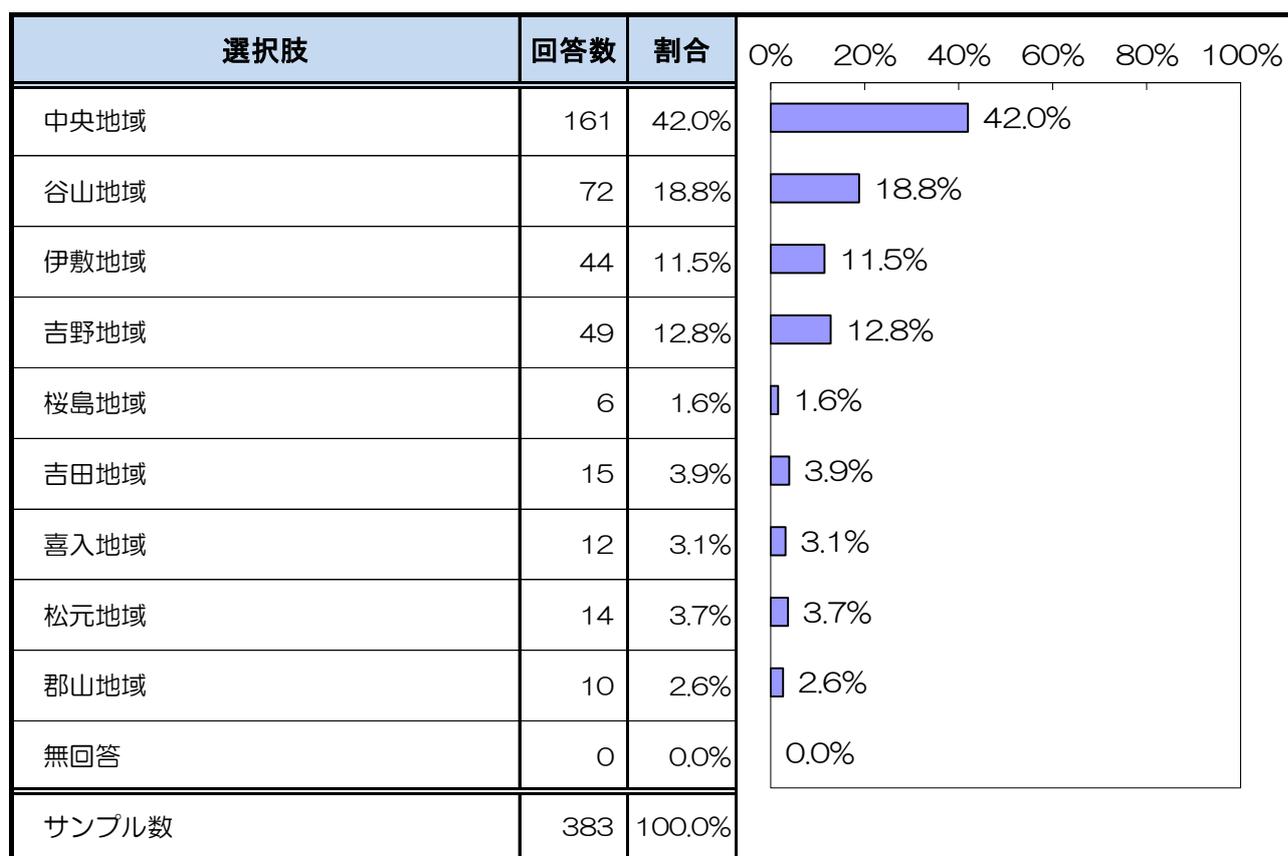
その他・答えたくない 1.3%

② 年代

選択肢	回答数	割合
18歳～29歳	70	18.3%
30歳代	124	32.4%
40歳代	95	24.8%
50歳代	48	12.5%
60歳代	27	7.0%
70歳以上	19	5.0%
無回答	0	0.0%
サンプル数	383	100.0%



③ 居住地



3. 報告書上の留意点

- ・ 構成比は小数点第2位以下を四捨五入して表示しているため、合計が合わない場合があります。
- ・ 複数回答可の質問の構成比の合計は100%を超えることがあります。
- ・ 設問文や選択肢等の表記において、原文より変更している場合があります。
- ・ 不適切な表現がみられた意見については、一部削除しております。

Ⅱ 体重に関する意識と減塩の取組みについて

1. 調査の目的

本市の健康増進計画「かごしま市民すこやかプラン」では、「適正な体重を維持している人の増加」「減塩に気をつけている人の割合の増加」を目標項目として挙げています。体重を適正に保つことや減塩に気をつけることは、自身の生活習慣病予防や健康維持につながるだけでなく、次世代の健康へもつながります。今回、体重に関する意識と減塩の取組みについて、今後の事業推進の参考とするためにアンケートを実施しました。

2. 調査結果を受けて担当課（保健予防課）からのコメント

体重を適正に保つことや減塩について、市民の皆さんの意識や取組みなどを伺うためにアンケートを実施したところ、多くのご回答やご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

適正体重については、57.4%の方が「自分が今、適正体重だと思う」と回答している状況の中、81.5%が「体重を減らしたい又は増やしたい」と思っており、その中でも51.6%の方が「大幅な減量または増量（5kg程度）」をしたいと回答され、現状と理想の乖離があることがわかりました。

減塩については、成人の1日の食塩摂取目標量を「知らなかった」と回答した方が69.2%おり、取組み以前に正しい知識の広報周知が課題であることがわかりました。

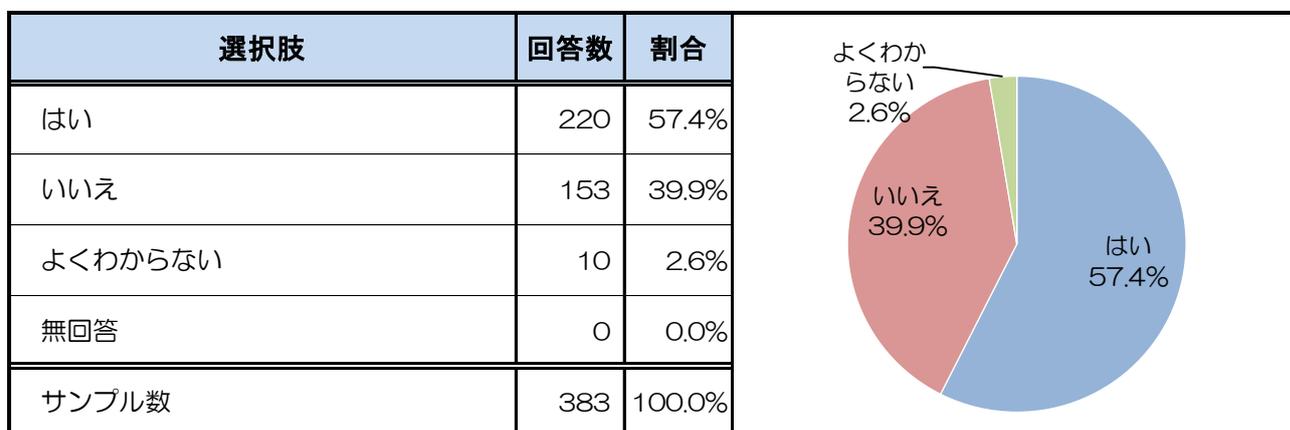
いずれの取組みに関しても、家庭でできるレシピの紹介に加え、飲食店や惣菜店と連携した食環境の整備を求める意見があり、大変参考になりました。また、若い世代の方を中心に、参加型のセミナーや料理教室だけでなく、アプリやSNSでの情報発信があると取組みやすいとのご意見もいただき、世代のニーズに合わせた取組みを充実させていく必要性を再認識しました。

今回の調査結果を踏まえ、体重を適正に保つことや減塩についてより効果的な情報発信に努めるとともに、イベント・教室を通して誰もが実践しやすい健康づくりの取組みを推進してまいります。

3. 調査結果

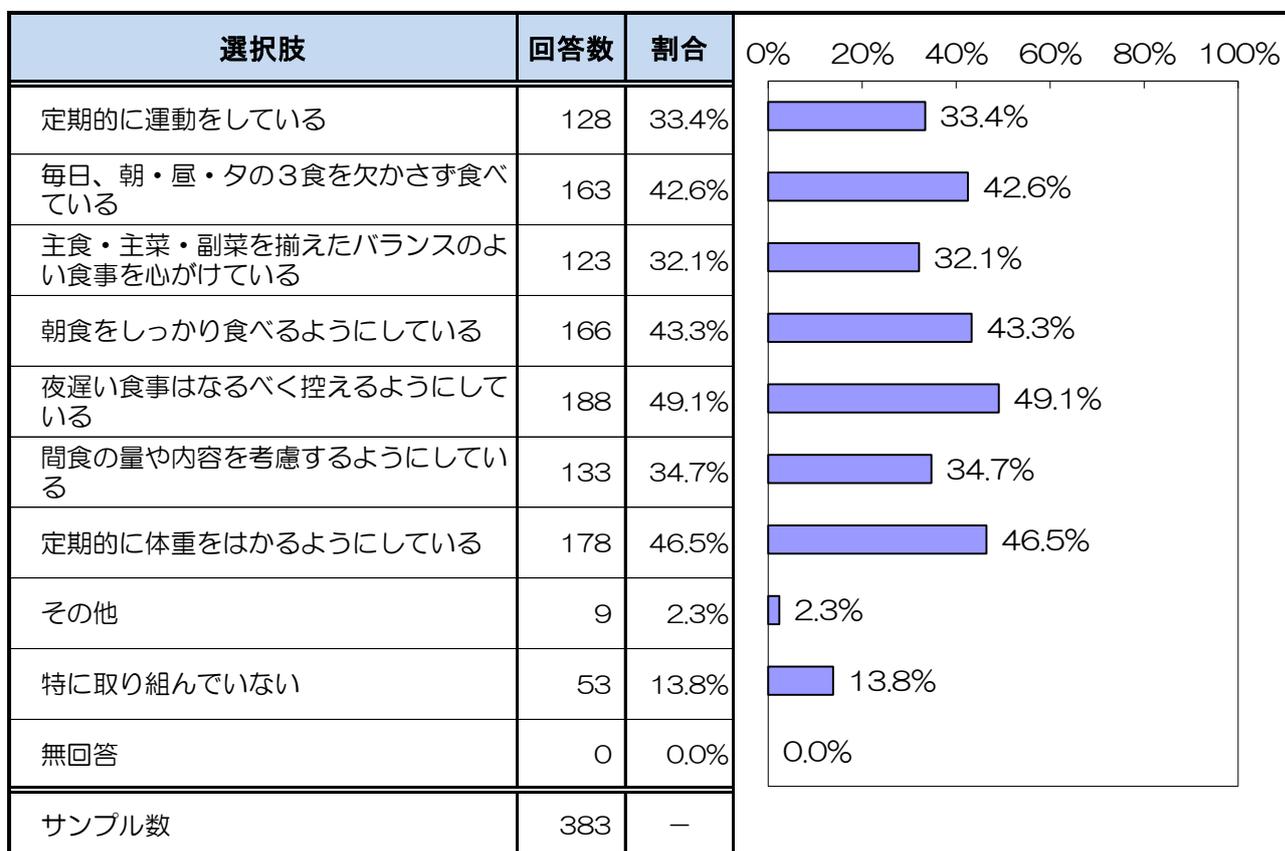
問1 あなたは今、適正体重だと思いますか。(単数回答)

「はい」が57.4%、「いいえ」が39.9%、「よくわからない」が2.6%となっている。



問2 体重を意識した具体的な取り組みがあれば教えてください。(複数回答)

「夜遅い食事はなるべく控えるようにしている」が49.1%と最も高く、次いで、「定期的に体重をはかるようにしている」の46.5%、「朝食をしっかり食べるようにしている」の43.3%の順となっている。



◆その他の回答（原文まま）

- ・オートファジーをしている。16時間食べない。
- ・色々なダイエットを行なったが、どれも効果が一時的でした。健保の相談時に糖質制限と減塩の効果を教えていただき実践しました。結果的に体重は-10kg、血圧も正常値の範囲内に収まりました。
- ・加工品をなるべく避ける、有酸素より筋トレを重視
- ・食事内容に気を遣っている
- ・市販のダシパックを使用している
- ・近い距離(通学)は歩くようにしている

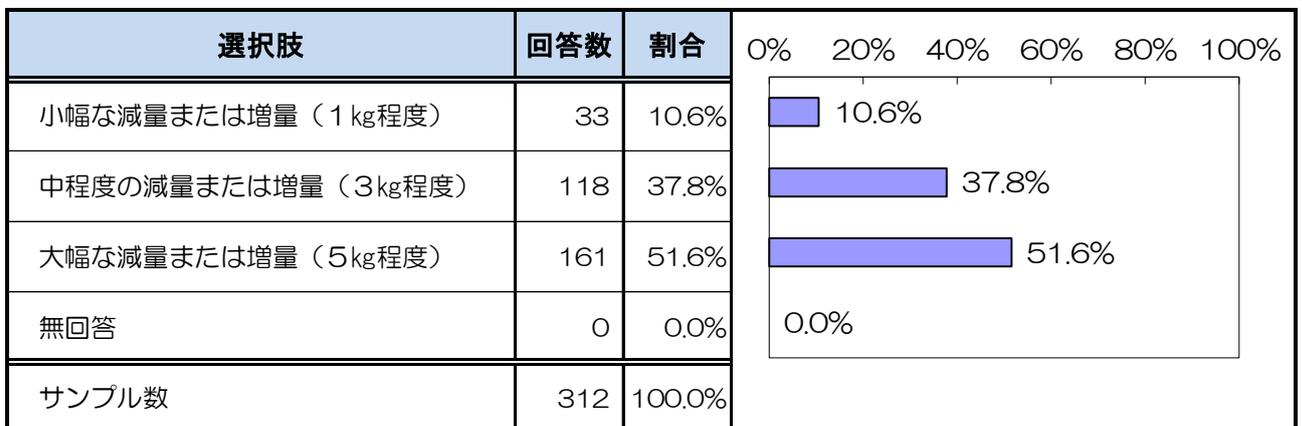
問3 あなたは体重を減らしたい又は増やしたいと思うことがありますか。
(単数回答)

「はい」が81.5%、「いいえ」が18.5%となっている。



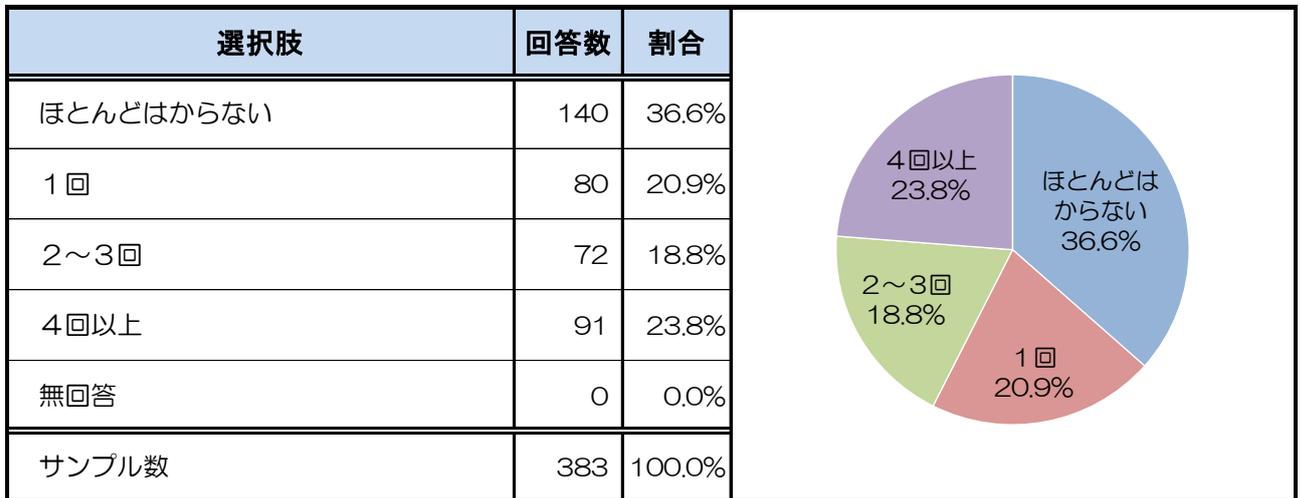
問4 問3で「1. はい」とお答えした方にお伺いします。どの程度体重を減らしたい、または増やしたいと考えていますか。(単数回答)

「小幅な減量または増量（1 kg程度）」が10.6%、「中程度の減量または増量（3 kg程度）」が37.8%、「大幅な減量または増量（5 kg程度）」が51.6%となっている。



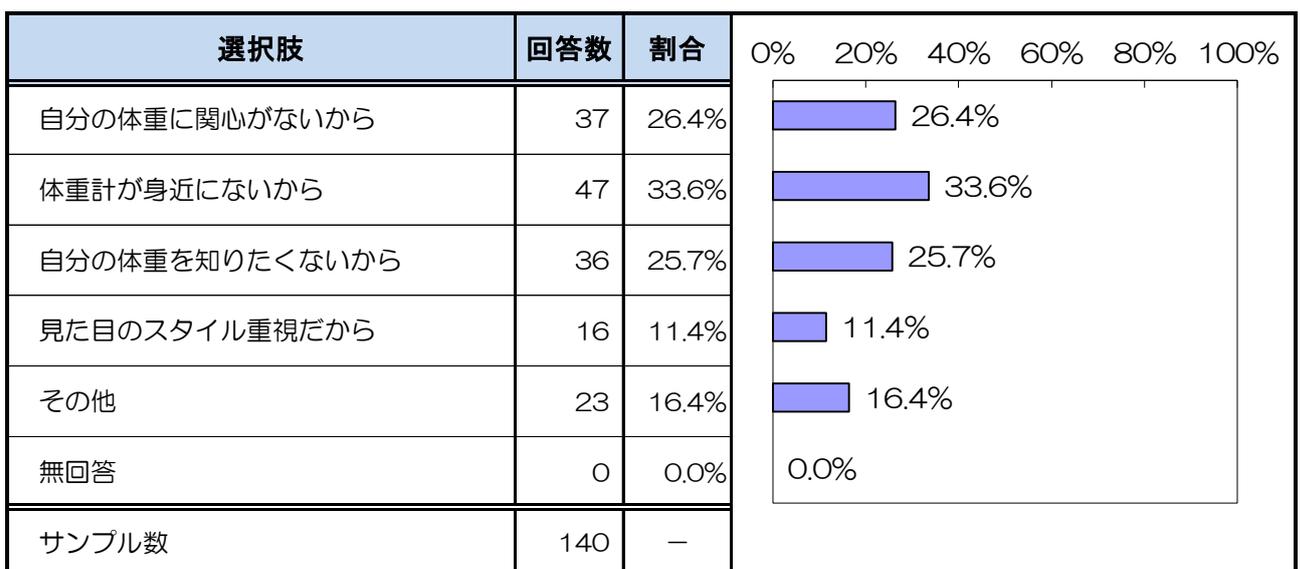
問5 あなたは1週間あたりどのくらいの頻度で体重をはかりますか。
(単数回答)

「ほとんどはからない」が36.6%と最も高く、次いで、「4回以上」の23.8%、「1回」の20.9%の順となっている。



問6 問5で「1. ほとんどはからない」とお答えした方にお伺いします。
体重をはからない理由をお選びください。(2つまで)

「体重計が身近にないから」が33.6%と最も高く、次いで、「自分の体重に関心がないから」の26.4%、「自分の体重を知りたくないから」の25.7%の順となっている。

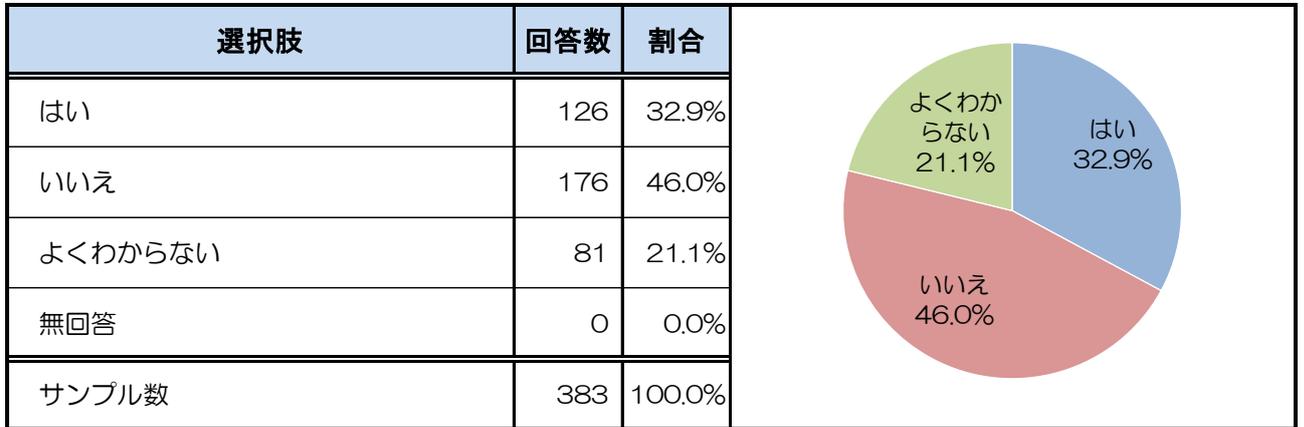


◆その他の回答（原文まま）

- ・面倒だから 4件
- ・忘れる 3件
- ・小食だから太ることは考えにくいので
- ・他の選択肢が当てはまらない、1ヶ月位で1回はかる
- ・やせたい希望はあるけどそんなに重視していないから
- ・一人暮らしを始めて、部屋のスペース的に体重計を収納していて毎日をはかる習慣が無くなってしまったから
- ・家族が体重計に乗ったら、体重をはかることを思いだします。月一回程度です。
- ・月1で通院している病院で体重をはかるので、実家には体重計ありましたが、昨年からの一人暮らしを機に体重計は買いませんでした。
- ・子育て中で目の前にある体重計に乗る余裕がないから
- ・痩せたいと思うんですけど、行動にうつせていません。歳もとってきたこともありあまり気にならなくなってきました。
- ・はかるのが面倒だから温泉に行ったついでなどにはかる
- ・体重に自信があるから
- ・体重計の電池がしょっちゅう切れるから
- ・体重計はあるが、はかるのを忘れてしまう
- ・大体自分の体重はわかっているから
- ・特に理由なし、健康診断で測定
- ・変化がないのがわかるから
- ・毎月定期通院ではかっているから

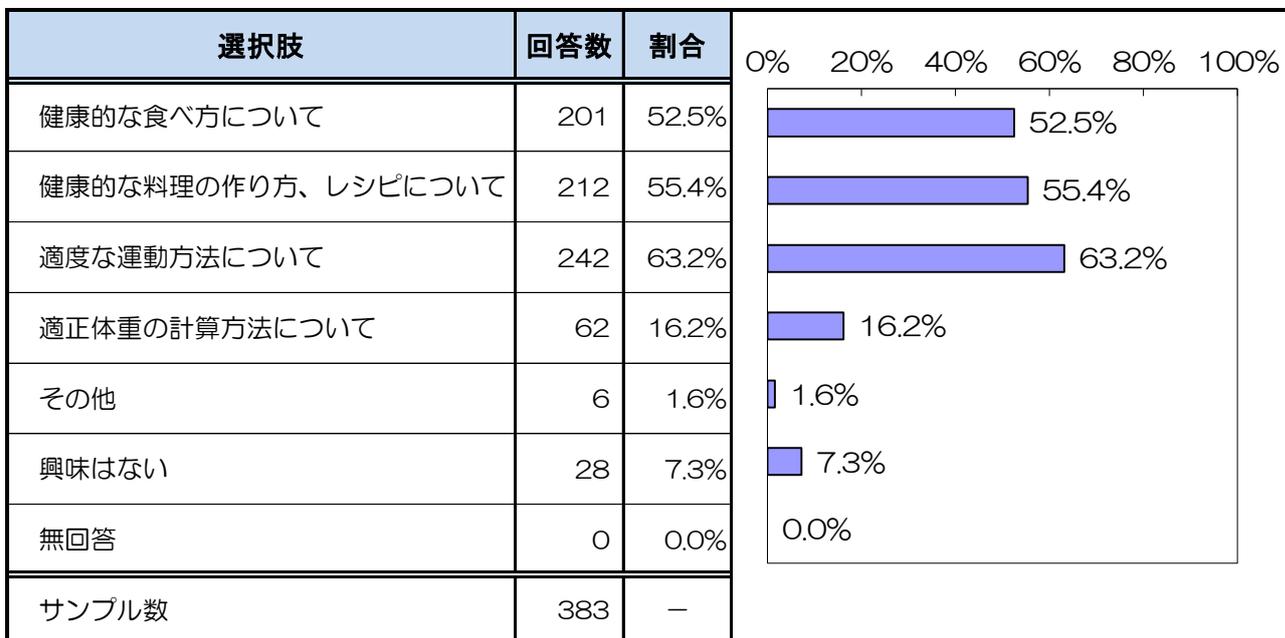
問7 適正体重に関する具体的な情報が不足していると感じることがありますか。(単数回答)

「はい」が32.9%、「いいえ」が46.0%、「よくわからない」が21.1%となっている。



問8 適正体重に関するどのような情報に興味がありますか。(複数回答)

「適度な運動方法について」が63.2%と最も高く、次いで、「健康的な料理の作り方、レシピについて」の55.4%、「健康的な食べ方について」の52.5%の順となっている。

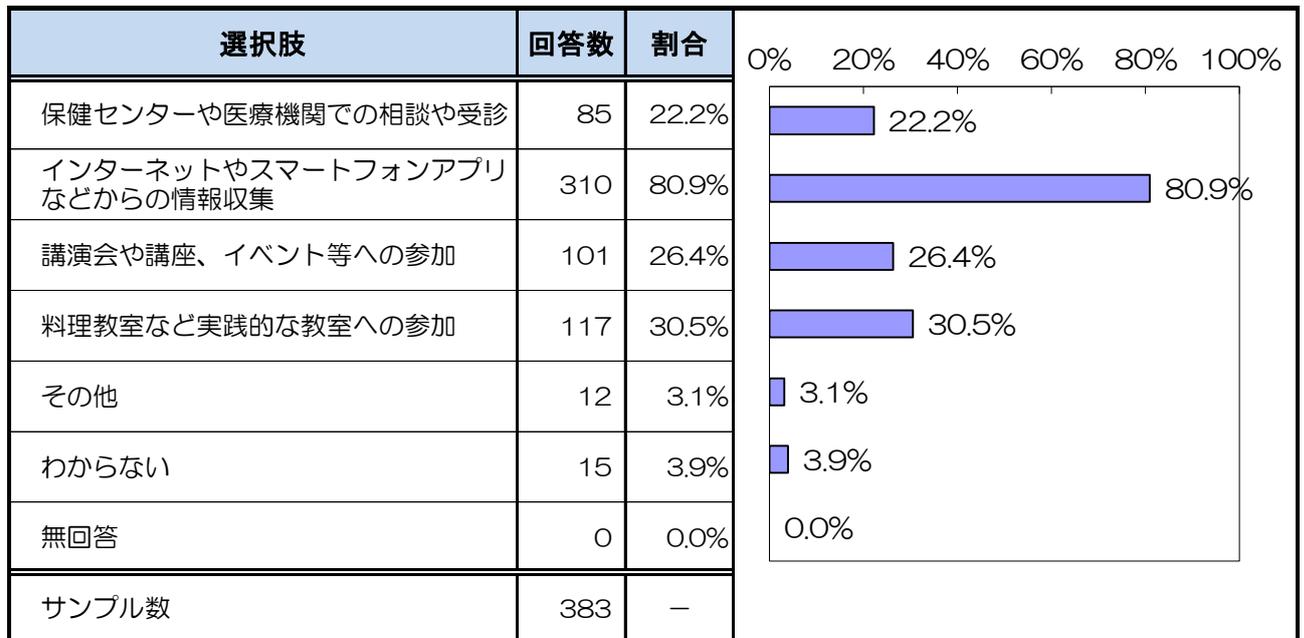


◆その他の回答（原文まま）

- ・BMIが下回った場合の健康面と無理なくBMI数値を上げる方法
- ・適正でなくても血液検査などの値が問題ないなら大丈夫という知識。世の中、やはり太っている人に偏見がある。やせたくても体力的に落ちるとやせれない。
- ・痩せすぎ、太りすぎのデメリット。また、適正体重になった人の体験談・具体的な方法や数字があると、参考になりやすいと思いました。
- ・日常の正しい姿勢や手軽にできるストレッチ
- ・年齢毎の平均体重
- ・必要な筋肉量と脂肪量の割合。体重が適正の範囲内だとしても、健康だとは言えないと感じるため

問9 適正体重を維持するための情報や教育を受ける方法として、どのような方法がいいと思いますか。(複数回答)

「インターネットやスマートフォンアプリなどからの情報収集」が 80.9%と最も高く、次いで、「料理教室など実践的な教室への参加」の 30.5%、「講演会や講座、イベント等への参加」の 26.4%の順となっている。



◆その他の回答（原文まま）

- ・あきらかに健康にリスク大と見受けられる体重に近い旨を本人自身が知り得る事が大切と思う。その自覚を知らせる事が必須
- ・インスタ
- ・広報や新聞での特集記事
- ・ジムでの指導
- ・スマホアプリだと定期的なコラム配信などで情報や教育を気軽に受けられるかと思いました。また、既に実施されていたら恐縮ですが、情報や教育を受けられる場として、保健センターや医療機関では敷居の高さも考えられます。気軽に、センテラスやイオンで受けられても良いのかなと思いました。
- ・各自で知りたい事を調べれば良い
- ・健康診断時の待ち時間などでパンフレットで気楽に情報得られるように読めたらいいと思う。毎年健康診断時が特に体のことを考える時期だからです。
- ・受ける方法も大事ですが、受ける側がどういう状況のときに情報を得たいと思うかを考慮したらいいのかなと思います。
- ・町内会の回覧板、又は、定期的にポストに入っている情報誌
- ・適正塩分量の可視化
- ・適正体重を維持する必要性や意味、その手段は既に広く知れ渡っており、対象者もそれはよく承知しているはず。必要なのは、その意識付けときっかけ。街のあちこちに公共体重計のようなものがあっていいのではないかな。周りから数値が見えないようにするなどの工夫は必要かもしれないが、認識、意識させる刺激が必要
- ・特定の医療機関で指導や受講料等の助成があればいいかなと思います。

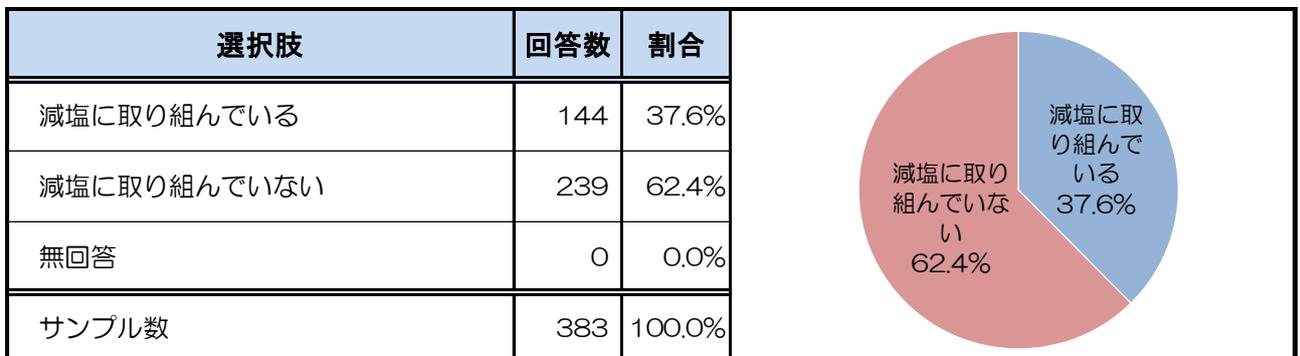
問 10 国の健康づくり対策の目標では、成人の1日の食塩摂取目標量を「男性 7.5g 未満」「女性 6.5g 未満」としています。このことをご存知ですか。(単数回答)

「知っていた」が 30.8%、「知らなかった」が 69.2%となっている。



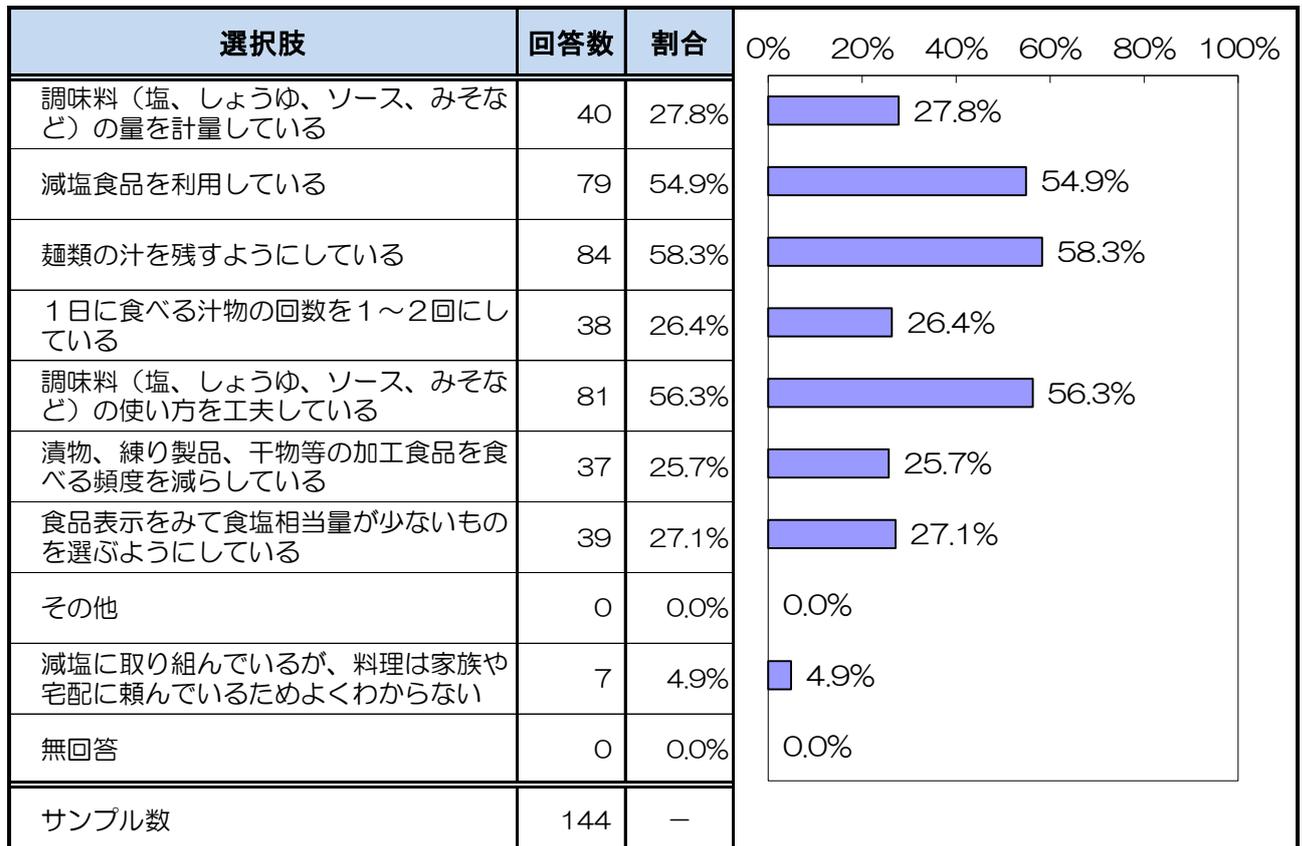
問 11 あなたは、日頃の食事で減塩に取り組んでいますか。(単数回答)

「減塩に取り組んでいる」が 37.6%、「減塩に取り組んでいない」が 62.4%となっている。



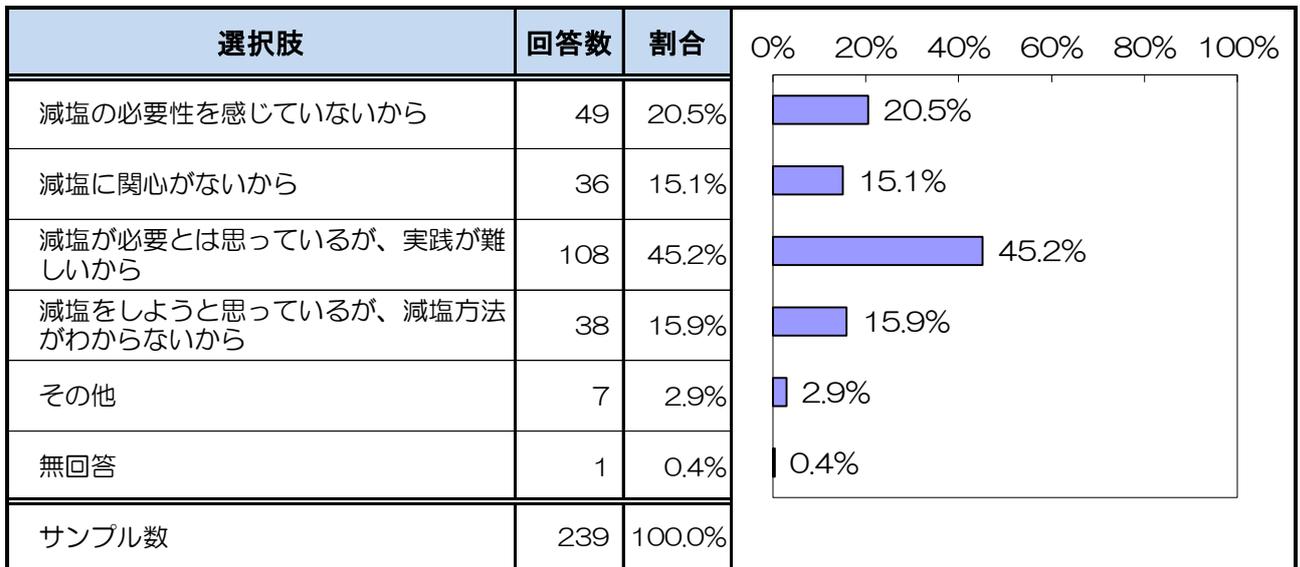
問 12 問 11 で「1. 減塩に取り組んでいる」とお答えした方にお伺いします。どのような減塩に取り組んでいますか。(複数回答)

「麺類の汁を残すようにしている」が 58.3%と最も高く、次いで、「調味料（塩、しょうゆ、ソース、みそなど）の使い方を工夫している」の 56.3%、「減塩食品を利用している」の 54.9%の順となっている。



問 13 問 1 1 で「2. 減塩に取り組んでいない」とお答えした方にお伺いします。減塩に取り組んでいない理由は何ですか。(単数回答)

「減塩が必要とは思っているが、実践が難しいから」が 45.2%と最も高く、次いで、「減塩の必要性を感じていないから」の 20.5%、「減塩をしようと思っているが、減塩方法がわからないから」の 15.9%の順となっている。

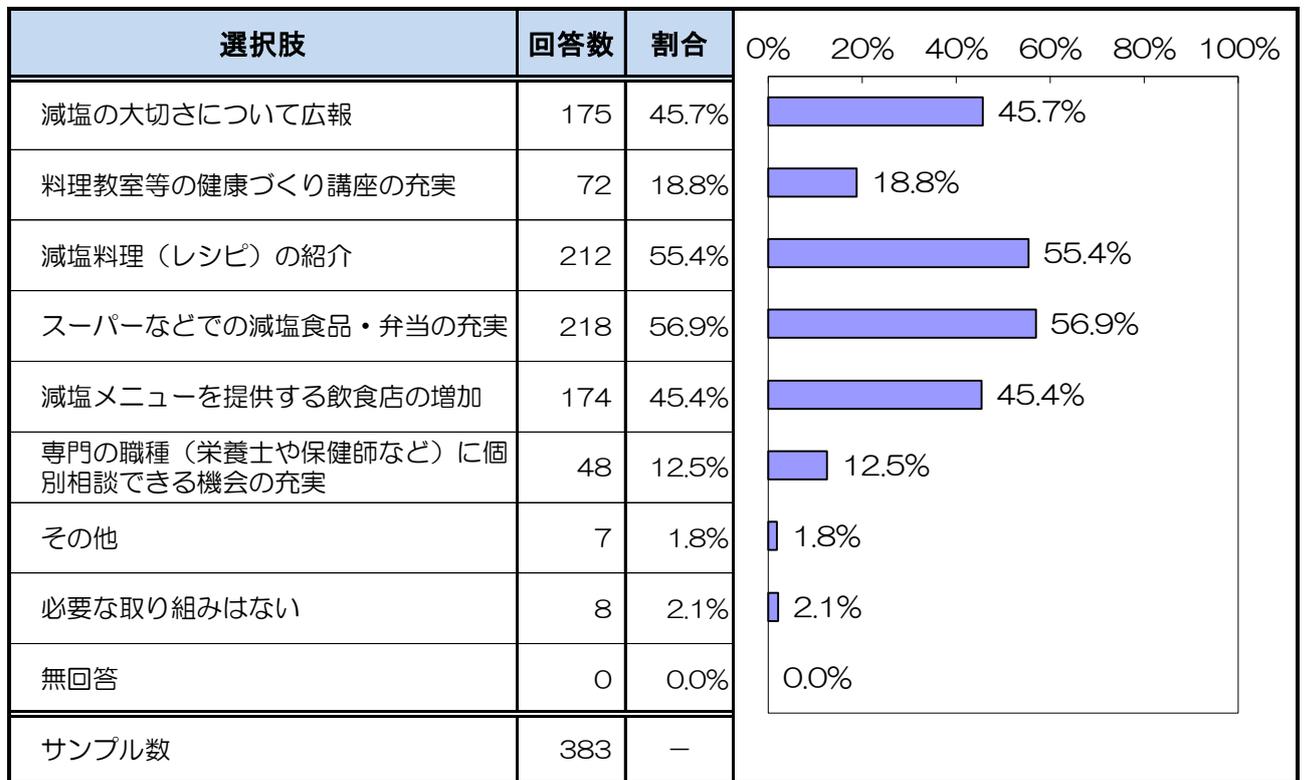


◆その他の回答 (原文まま)

- ・すでに減塩ができているから、減塩に取り組んでいるとは言えない
- ・なににどれだけの塩分が含まれているか分からないし、減塩で味の質が落ちた食事はできればたくない
- ・めんどくさい
- ・運動して汗をかく
- ・低血圧なので逆に塩分が必要なのかなと思って
- ・特に減塩に取り組んではいませんが、もともと食事は薄味なので塩分の摂りすぎではないと思っています。
- ・農業の仕事柄、体力を使う力仕事もあるので(特に夏場)、塩分はある程度必要と思っています。

問 14 減塩を市民のみなさんに普及するために、どのような取り組みが必要
だと思えますか。(3つまで)

「スーパーなどでの減塩食品・弁当の充実」が 56.9%と最も高く、次いで、「減塩料理（レシピ）の紹介」の 55.4%、「減塩の大切さについて広報」の 45.7%の順となっている。



◆その他の回答（原文まま）

- ・おいしく減塩するためにどのような調味料／味付けが効果的か紹介してほしい
- ・食品製造業又は国単位で減塩対策をこうじてもらいたい
- ・塩分の代替えとなる調味料や薬味、味付け等の紹介
- ・可能なら、都道府県別（もしくは市町村別）の塩分摂取量を提示していただき、鹿児島順位を公表。そのあとで上記のような取り組みをお伝えすると印象に残りやすいかもしれません。
- ・学生でも作れる簡単、そして、安いレシピが分かるような取り組み
- ・手料理の大事さ
- ・普段の食事（3食）が、一体どれだけの塩分摂取量になるのかのワークショップや体験が必要。また、塩分量によって身体にどのような変化をもたらすのかを実験するなど

問 15 適正体重を保つことや減塩などの健康づくりの取り組みについて、ご意見・ご要望等ございましたら自由にお書きください。(任意回答)

◆回答一覧 (一部抜粋・原文まま)

回答内容	性別	年代	地域
お店のメニューに減塩メニューを増やして、全世代に意識させていけば、話のネタになり、気にするのでは？	男	40 歳代	吉野
スーパーなどの食に関係ある場所での減塩料理の試食や減塩調味料の提供、販売。	男	30 歳代	中央
仕事帰り休日に参加できる料理教室の開催。LINE 等による情報提供。	女	50 歳代	中央
適正体重について肥満はたびたび指導などがあるが、若い人には危険な減量のしすぎなども注意が必要だと思う。痩せてるのがいい、という感覚は良くないのでは。	女	50 歳代	中央
乳幼児がいても参観出来る料理教室(離乳食の取り分けも出来るような)があれば嬉しい。	女	30 歳代	中央

Ⅲ 中心市街地の活性化について

1. 調査の目的

本市では、中心市街地の活性化を図るため、中心市街地活性化基本計画を策定し、官民一体となって様々な取組みを実施しています。今回は、第3期中心市街地活性化基本計画がスタートした平成30年度以降の中心市街地の状況を把握し、より良いまちづくりの参考とするために、アンケートを実施しました。

2. 調査結果を受けて担当課（産業政策課）からのコメント

今回は、第3期鹿児島市中心市街地活性化基本計画がスタートした平成30年度以降の中心市街地の状況を把握するために調査を実施いたしました。

5年前と比べて、「中心市街地の活気が増している・どちらかといえば増している」と回答された方が半数を超えた（57.7%）ほか、観光面・商業面で「魅力が向上した・どちらかといえば向上した」と回答された方も同様の傾向（各56.4%、64.0%）にあり、さらに、現在の中心市街地に対して「魅力を感じる・やや感じる」と回答された方も半数を超えた（55.3%）ことから、活性化の取組については一定の評価をいただいていることが分かりました。

中心市街地に出かける回数は、平日・休日共に「減った」と「やや減った」の合計（平日34.5%、休日37.1%）が「増えた」と「やや増えた」（平日25.1%、休日31.3%）の合計を上回った一方、中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける回数は、平日・休日共に「増えた」と「やや増えた」の合計（平日30.6%、休日37.6%）が「減った」と「やや減った」（平日25.6%、休日26.1%）の合計を上回っており、5年前と比べると来街機会が減少している様子がうかがえます。

また、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛等により、ネットショッピングによる購入額は、5年前と比べて「増えた・やや増えた」と回答された方が大幅に増加（77.6%）しており、消費行動に大きな変化がみられました。

中心市街地に出かける際の主な交通手段は、車が約8割（78.1%）を占め、公共交通機関での来街は少ない状況（市電19.1%、バス24.5%、JR8.1%、タクシー0.8%）となっており、自由意見では、駐車場が不足している・駐車料金が高等の声寄せられました。

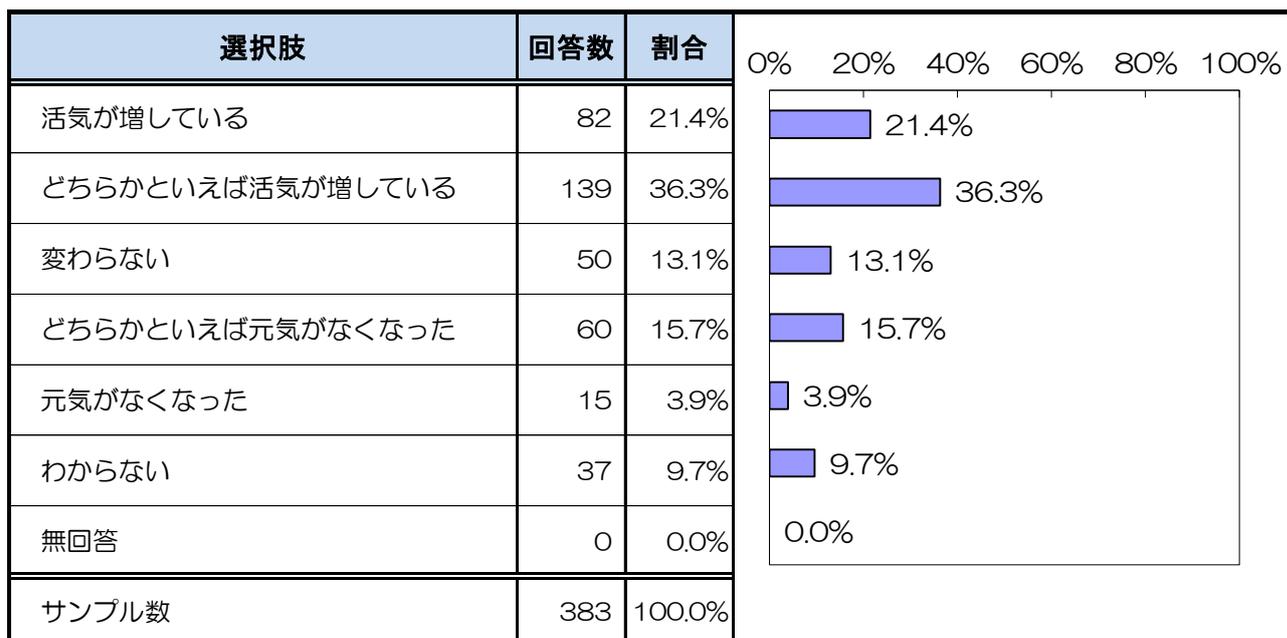
中心市街地はどんなまちであってほしいと思いますかという問いでは、「魅力ある店舗や飲食店があるまち」と答えた方が77.8%と最も多かったものの、「魅力ある店舗や飲食店が多い」と答えた方は45.2%にとどまっており、中心市街地では魅力ある商業・サービス業のさらなる活性化に取り組む必要があることが分かりました。

今回の調査結果を、今後の中心市街地のまちづくりに生かしていきたいと考えております。

3. 調査結果

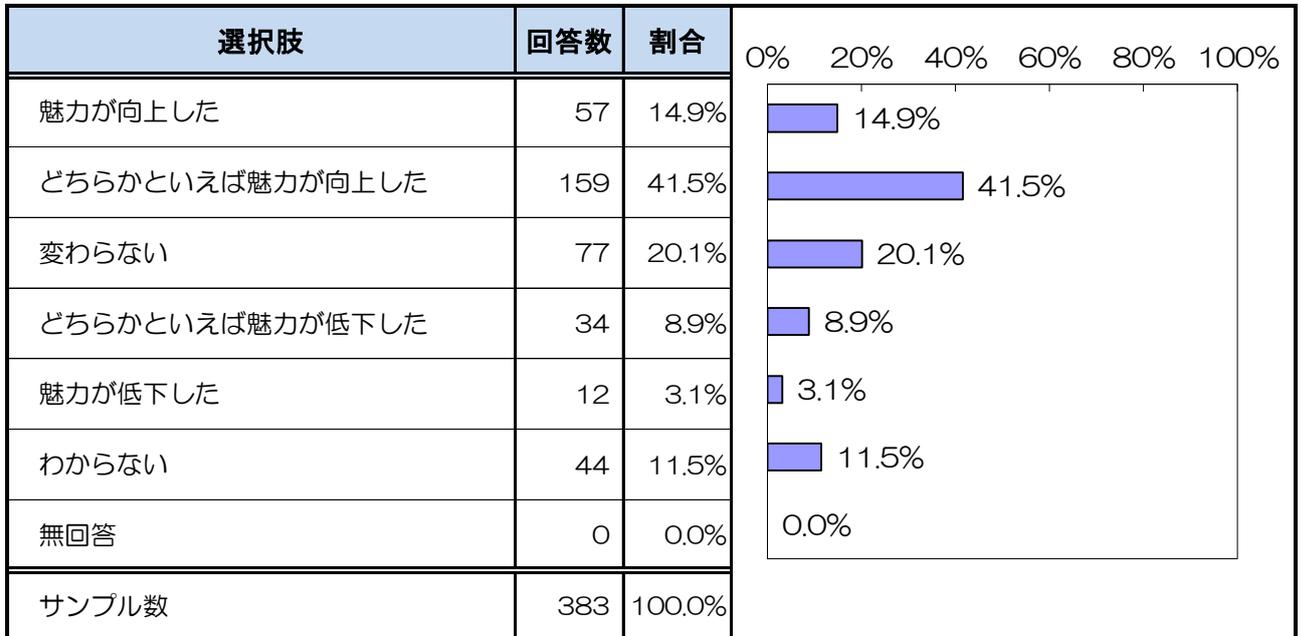
問 16 中心市街地のにぎわい（人通りや活気）は、5年前と比べてどうなつたと思いますか。（単数回答）

「どちらかといえば活気が増している」が 36.3%と最も高く、次いで、「活気が増している」の 21.4%、「どちらかといえば元気がなくなった」の 15.7%の順となっている。



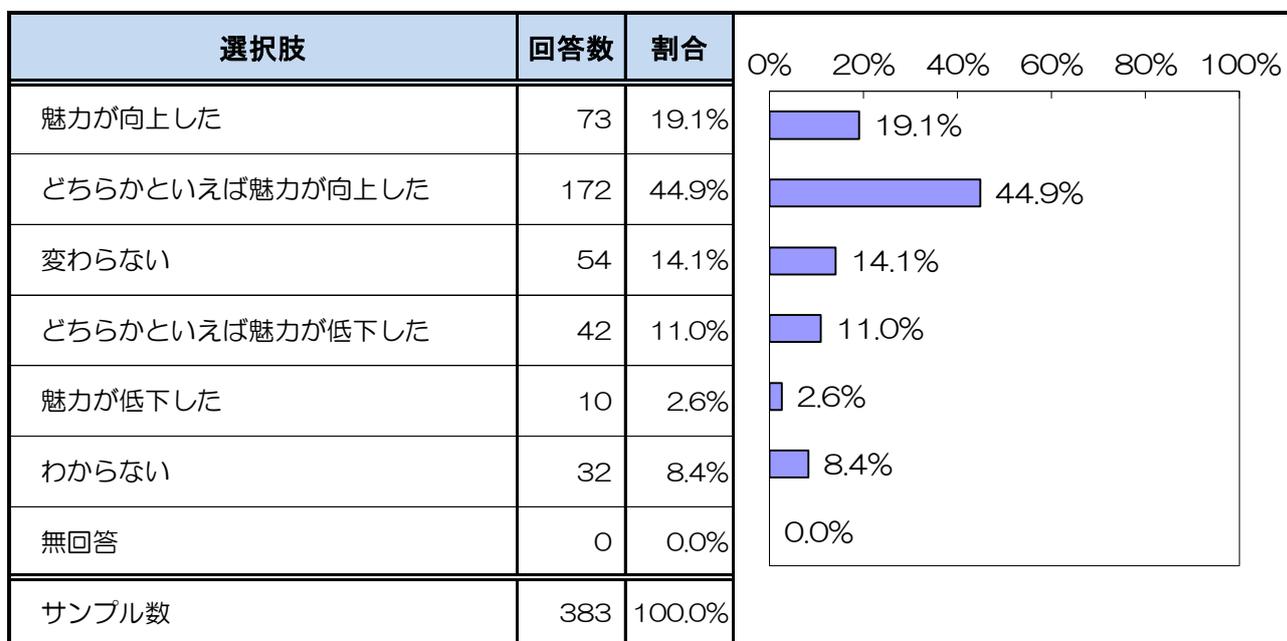
問 17 中心市街地の観光面（観光施設、観光イベント、おもてなし等）での魅力は、5年前と比べてどうなったと思いますか。（単数回答）

「どちらかといえば魅力が向上した」が41.5%と最も高く、次いで、「変わらない」の20.1%、「魅力が向上した」の14.9%の順となっている。



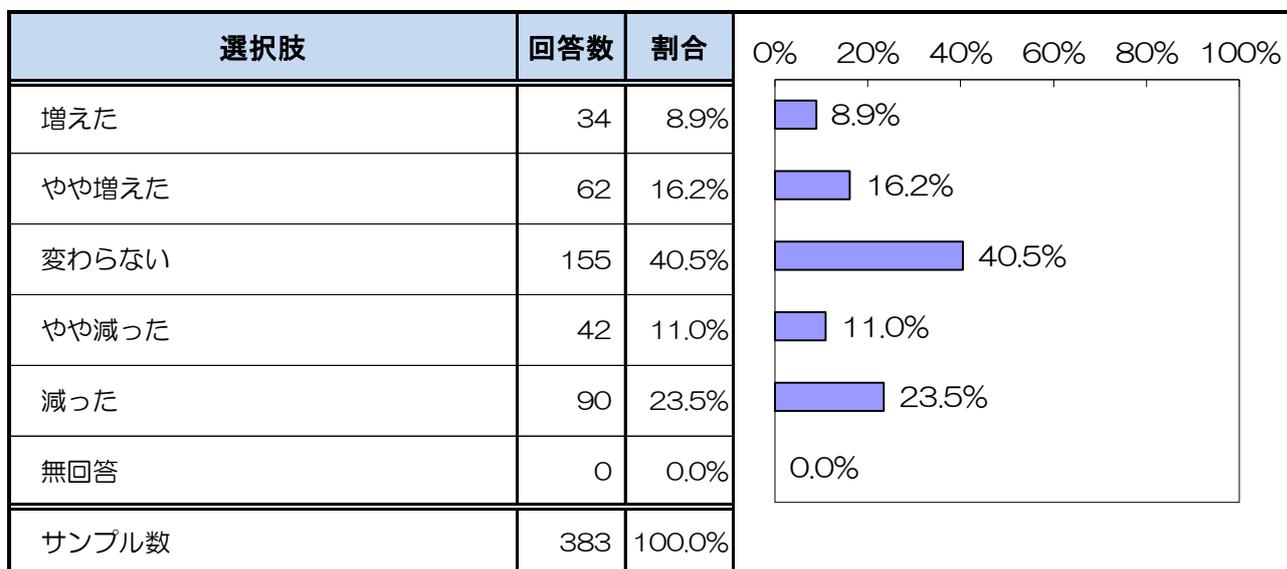
問 18 中心市街地の商業面（商業施設、商店街イベント等）での魅力は、5年前と比べてどうなったと思いますか。（単数回答）

「どちらかといえば魅力が向上した」が 44.9%と最も高く、次いで、「魅力が向上した」の 19.1%、「変わらない」の 14.1%の順となっている。



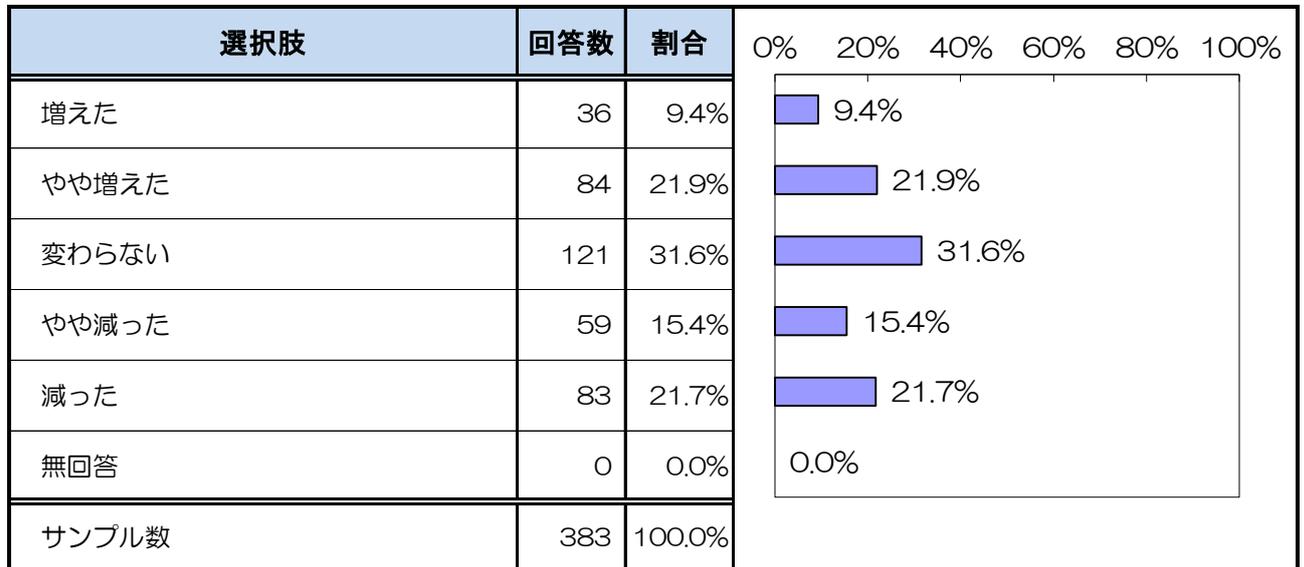
問 19 平日に、中心市街地に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。（単数回答）

「変わらない」が 40.5%と最も高く、次いで、「減った」の 23.5%、「やや増えた」の 16.2%の順となっている。



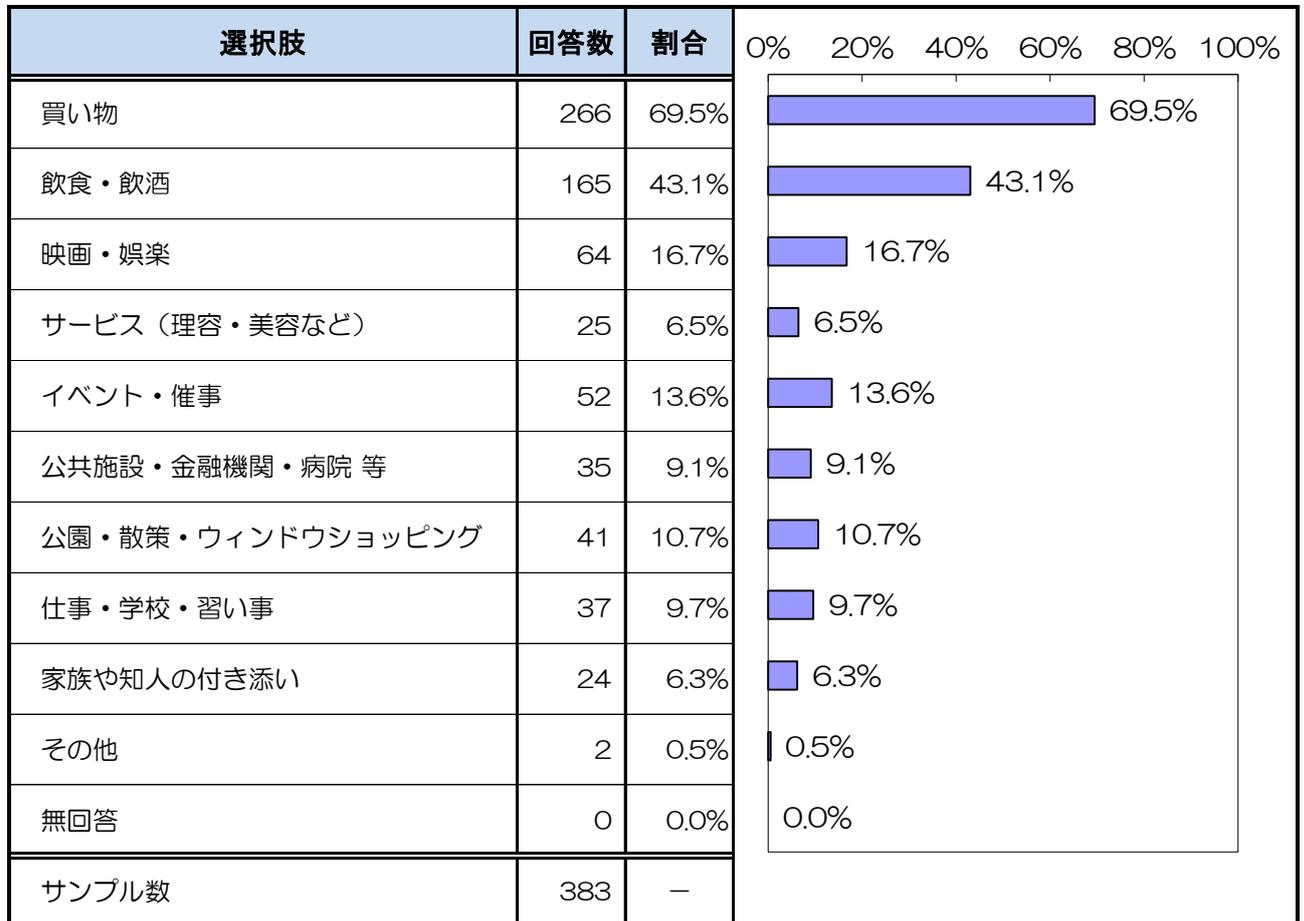
問 20 休日に、中心市街地に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。(単数回答)

「変わらない」が31.6%と最も高く、次いで、「やや増えた」の21.9%、「減った」の21.7%の順となっている。



問 21 中心市街地に出かける際の主な目的を教えてください。(2つまで)

「買い物」が69.5%と最も高く、次いで、「飲食・飲酒」の43.1%、「映画・娯楽」の16.7%の順となっている。

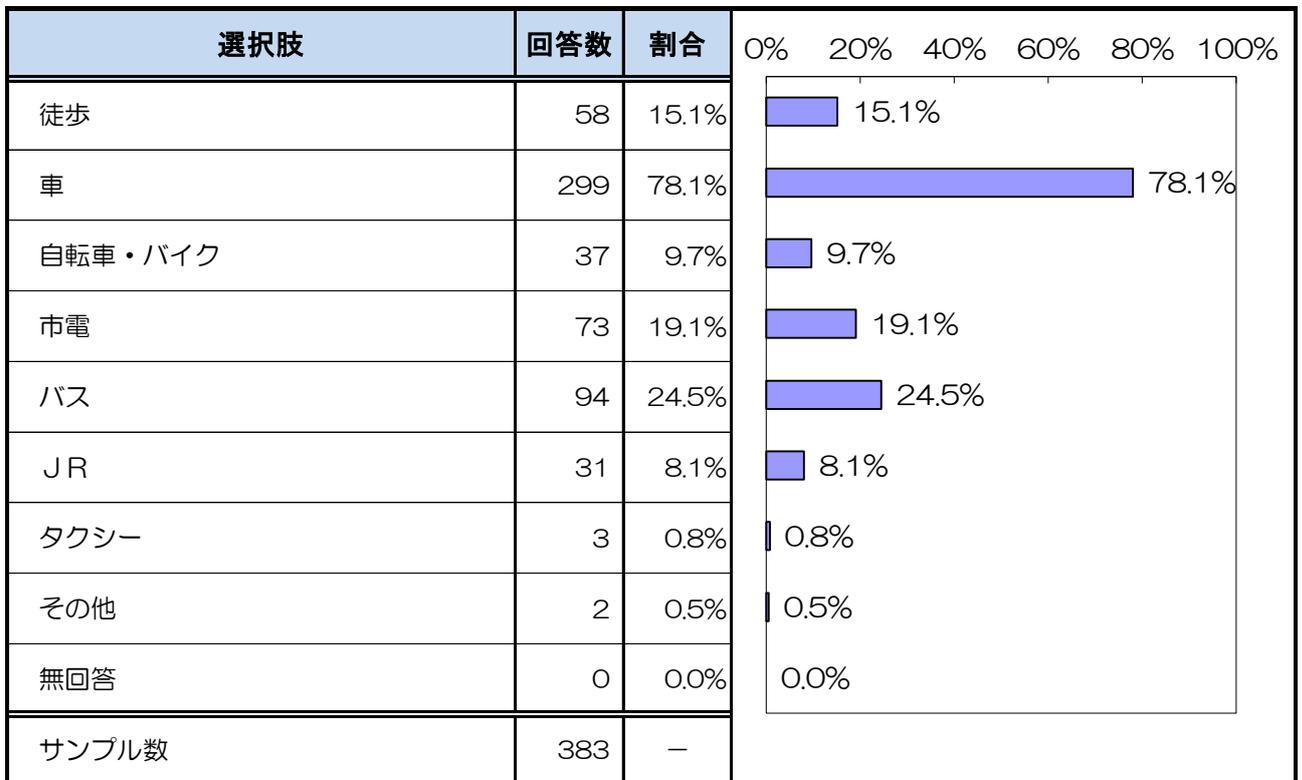


◆その他の回答（原文まま）

- ・あまり行かないので、興味が薄いです。
- ・出かけない

問 22 中心市街地に出かける際の主な交通手段を教えてください。(2つまで)

「車」が78.1%と最も高く、次いで、「バス」の24.5%、「市電」の19.1%の順となっている。

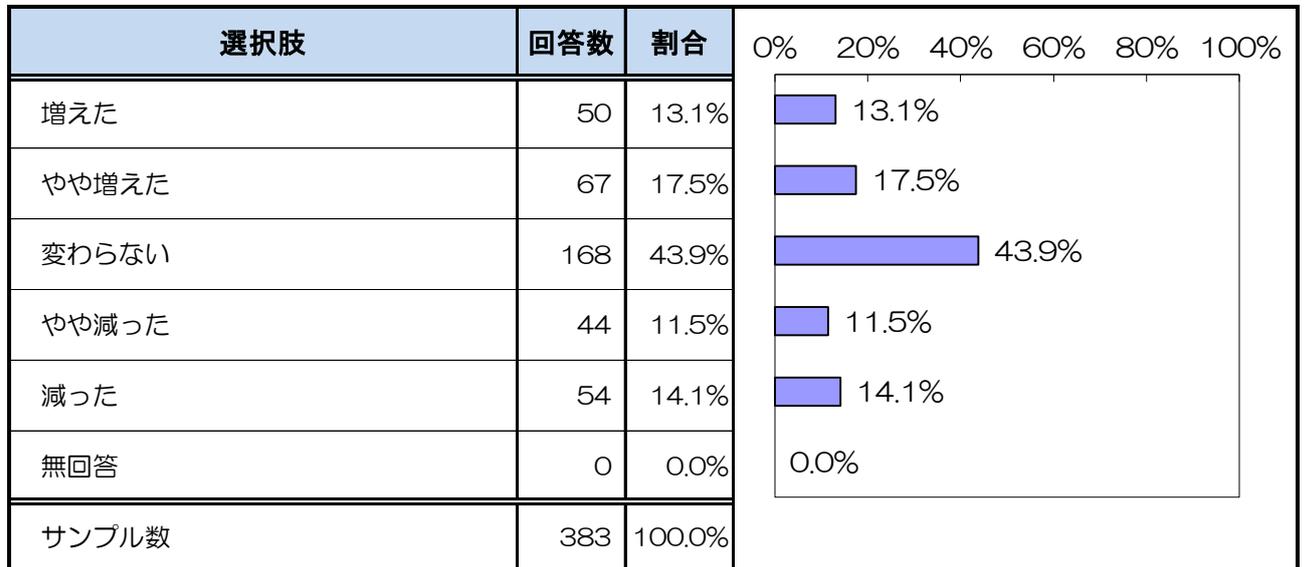


◆その他の回答（原文まま）

- ・フェリー
- ・出かけない

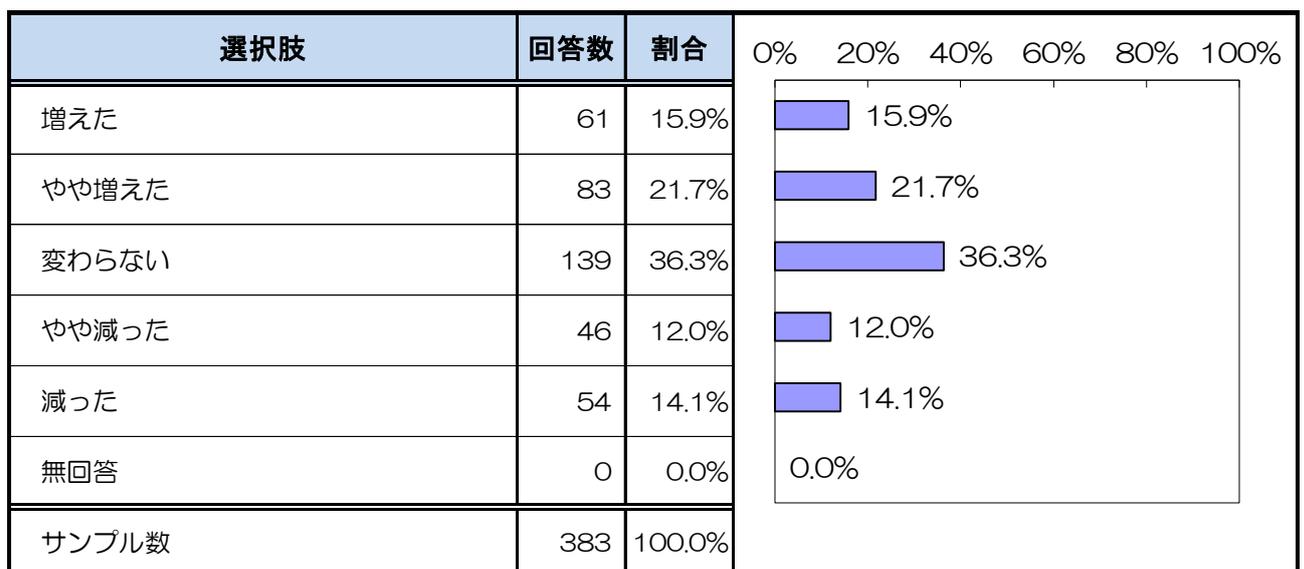
問 23 平日に、中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。(単数回答)

「変わらない」が43.9%と最も高く、次いで、「やや増えた」の17.5%、「減った」の14.1%の順となっている。



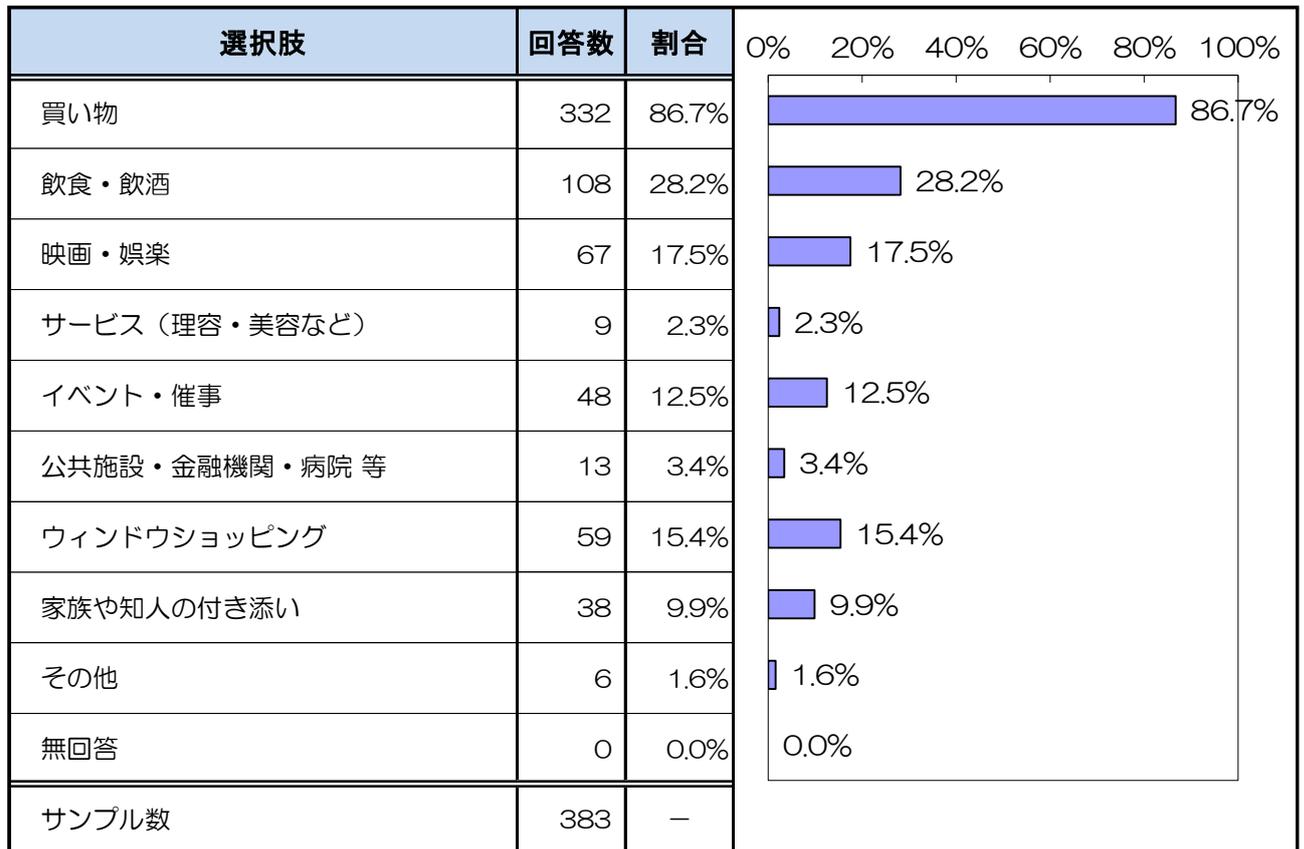
問 24 休日に、中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。(単数回答)

「変わらない」が36.3%と最も高く、次いで、「やや増えた」の21.7%、「増えた」の15.9%の順となっている。



問 25 中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける際の主な目的を教えてください。(2つまで)

「買い物」が86.7%と最も高く、次いで、「飲食・飲酒」の28.2%、「映画・娯楽」の17.5%の順となっている。

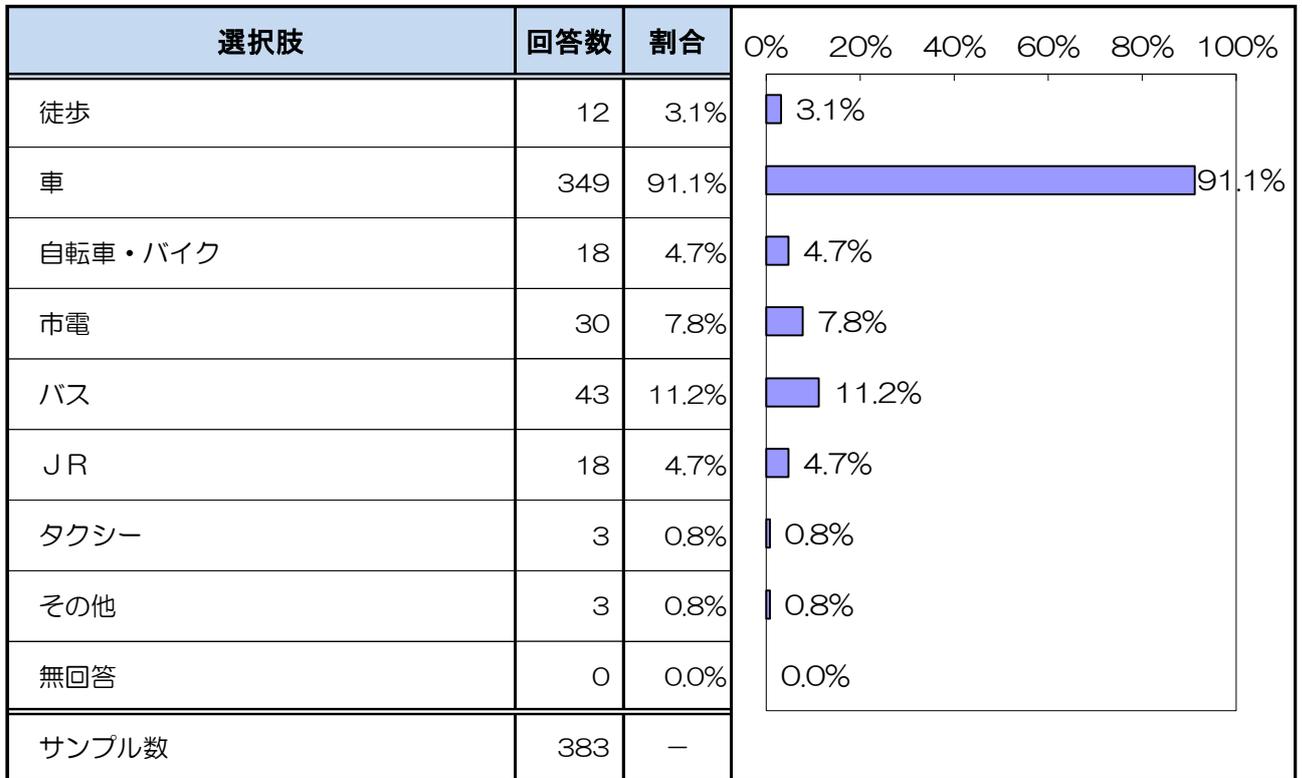


◆その他の回答（原文まま）

- ・スクエアモールのホットヨガに週3回ほど通っています。
- ・行かないので
- ・実家に帰省
- ・出かけない
- ・中心地に済んでいるので、中心地外にはあまり行かない。
- ・駐車場が利用しやすい

問 26 中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける際の主な交通手段を教えてください。(2つまで)

「車」が 91.1%と最も高く、次いで、「バス」の 11.2%、「市電」の 7.8%の順となっている。

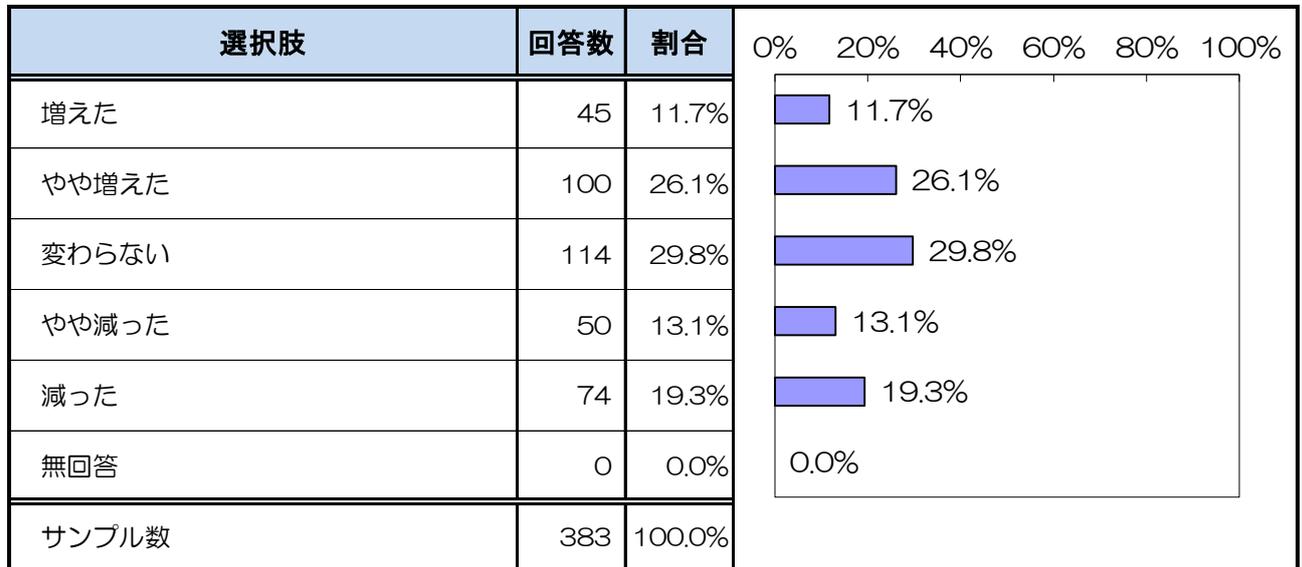


◆その他の回答（原文まま）

- ・フェリー
- ・行かない
- ・出かけない

問 27 中心市街地での消費額は、5年前と比べてどうなりましたか。
(単数回答)

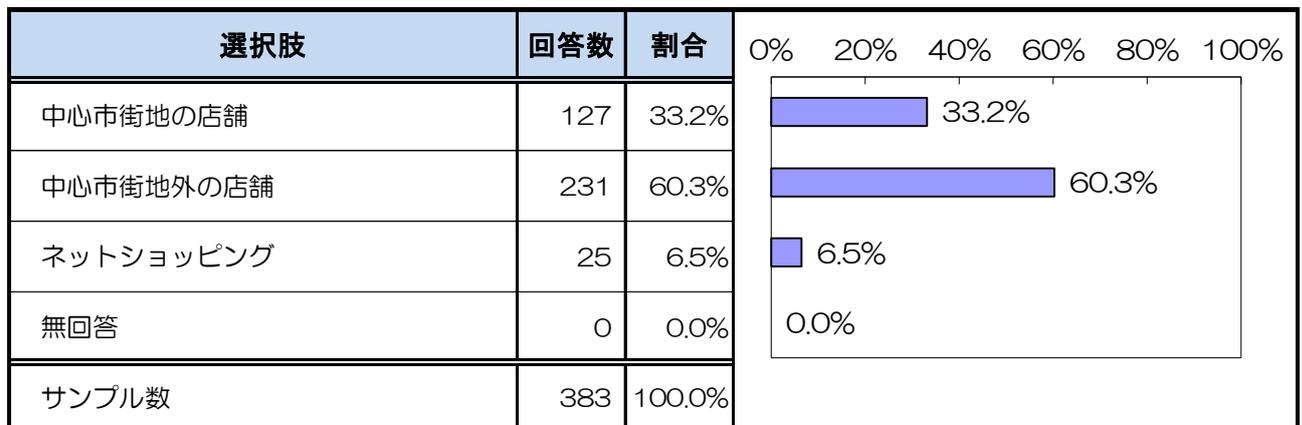
「変わらない」が29.8%と最も高く、次いで、「やや増えた」の26.1%、「減った」の19.3%の順となっている。



問 28 買い物の主な手段を教えてください。(それぞれ単数回答)

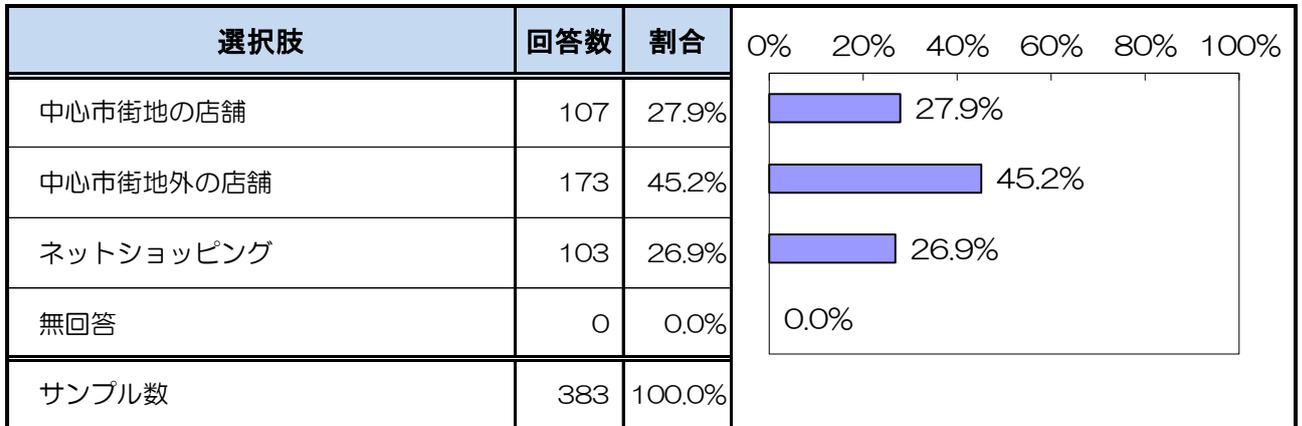
① 食品、飲料、酒類の購入

「中心市街地の店舗」が33.2%、「中心市街地外の店舗」が60.3%、「ネットショッピング」が6.5%となっている。



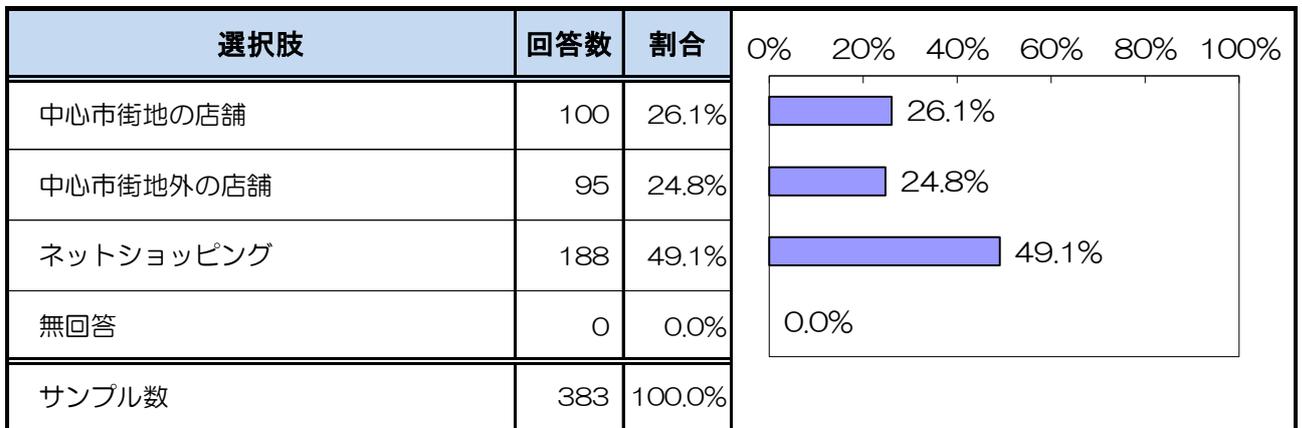
② 生活家電、AV機器、PC・周辺機器等の購入

「中心市街地の店舗」が 27.9%、「中心市街地外の店舗」が 45.2%、「ネットショッピング」が 26.9%となっている。



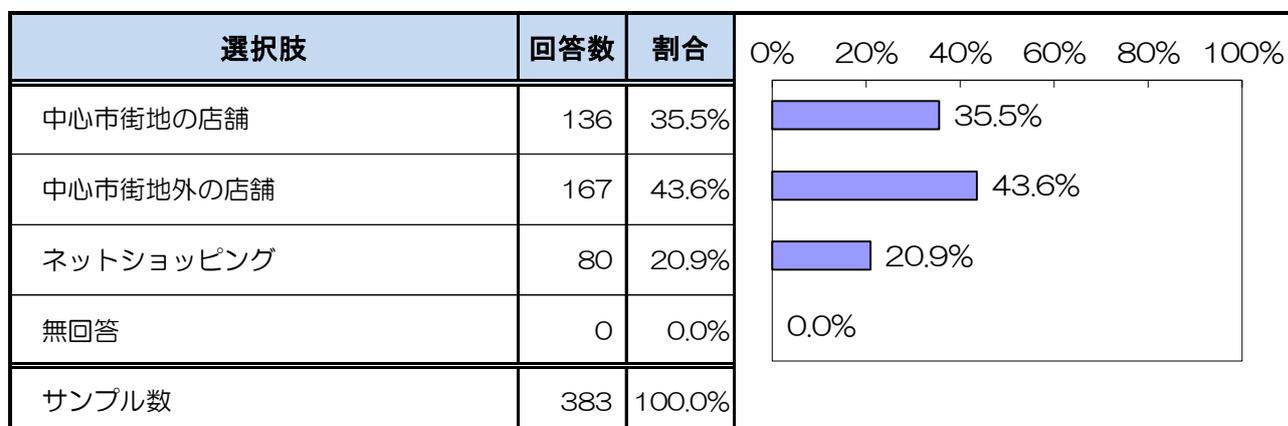
③ 書籍、映像・音楽ソフトの購入

「中心市街地の店舗」が 26.1%、「中心市街地外の店舗」が 24.8%、「ネットショッピング」が 49.1%となっている。



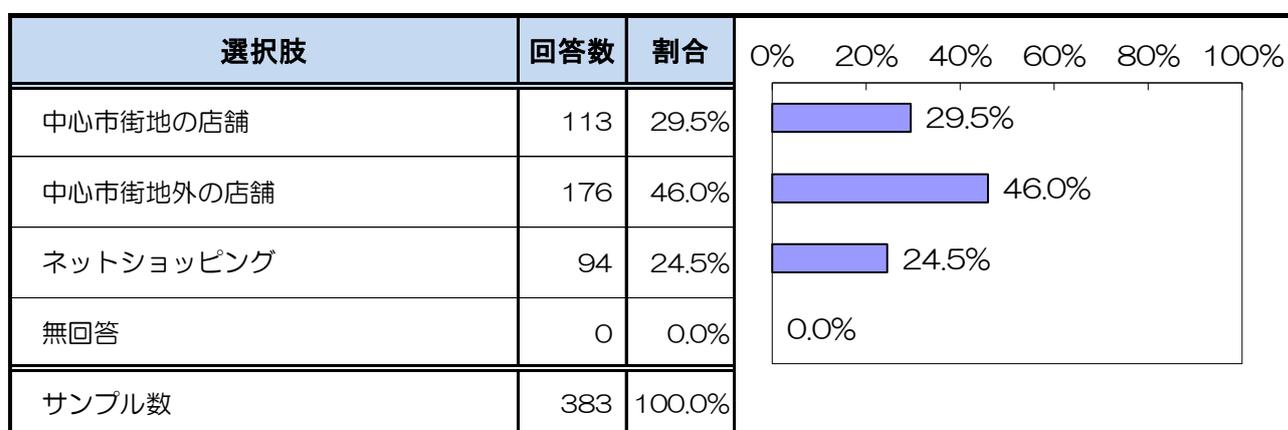
④ 化粧品、医薬品の購入

「中心市街地の店舗」が 35.5%、「中心市街地外の店舗」が 43.6%、「ネットショッピング」が 20.9%となっている。



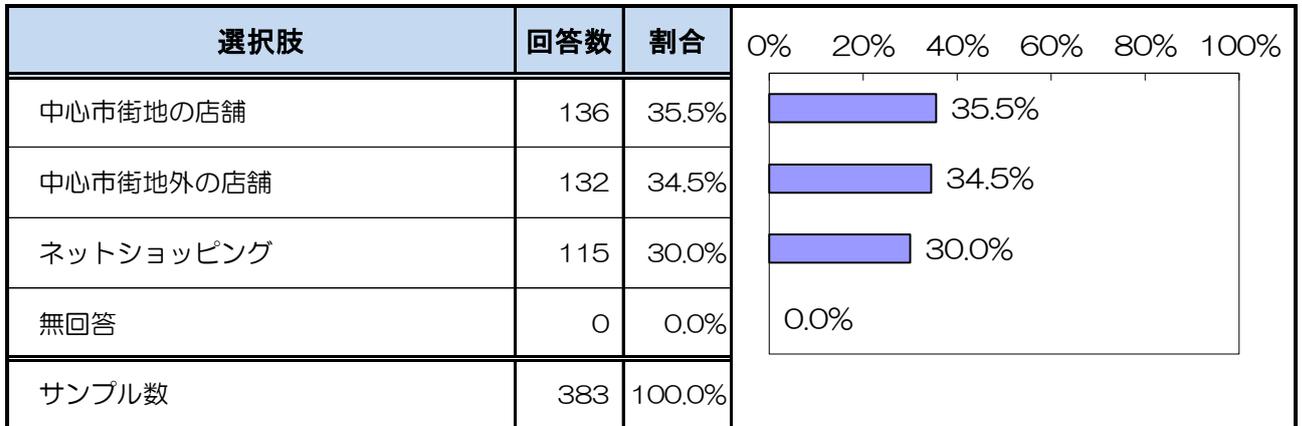
⑤ 生活雑貨、家具、インテリアの購入

「中心市街地の店舗」が 29.5%、「中心市街地外の店舗」が 46.0%、「ネットショッピング」が 24.5%となっている。



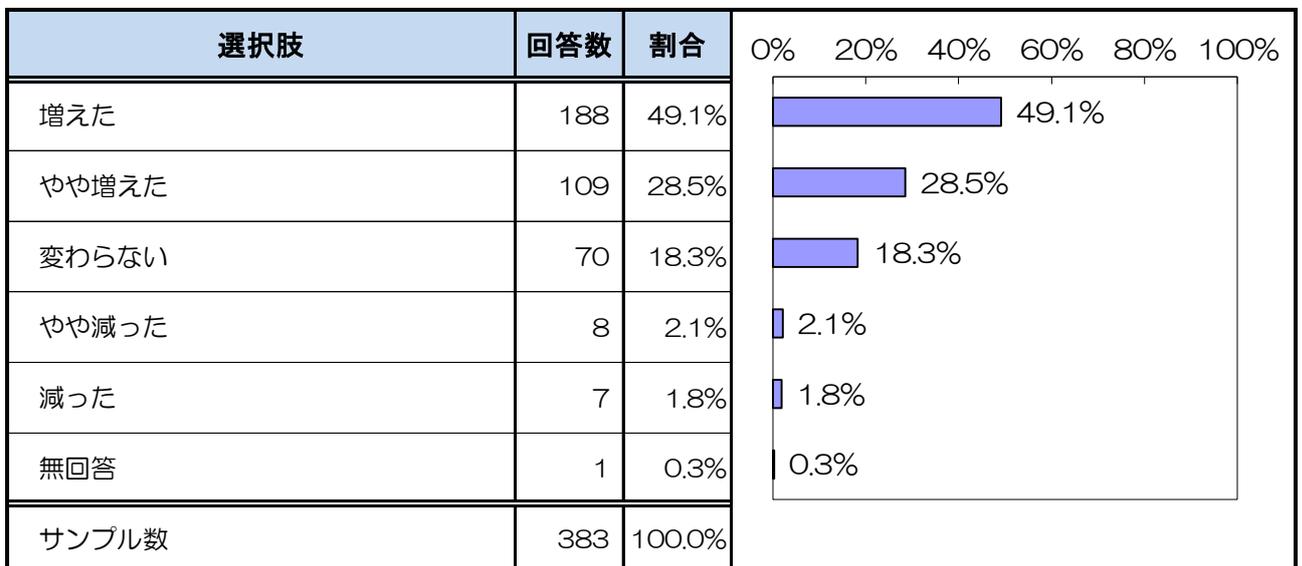
⑥ 衣類・服装雑貨等の購入

「中心市街地の店舗」が 35.5%、「中心市街地外の店舗」が 34.5%、「ネットショッピング」が 30.0%となっている。



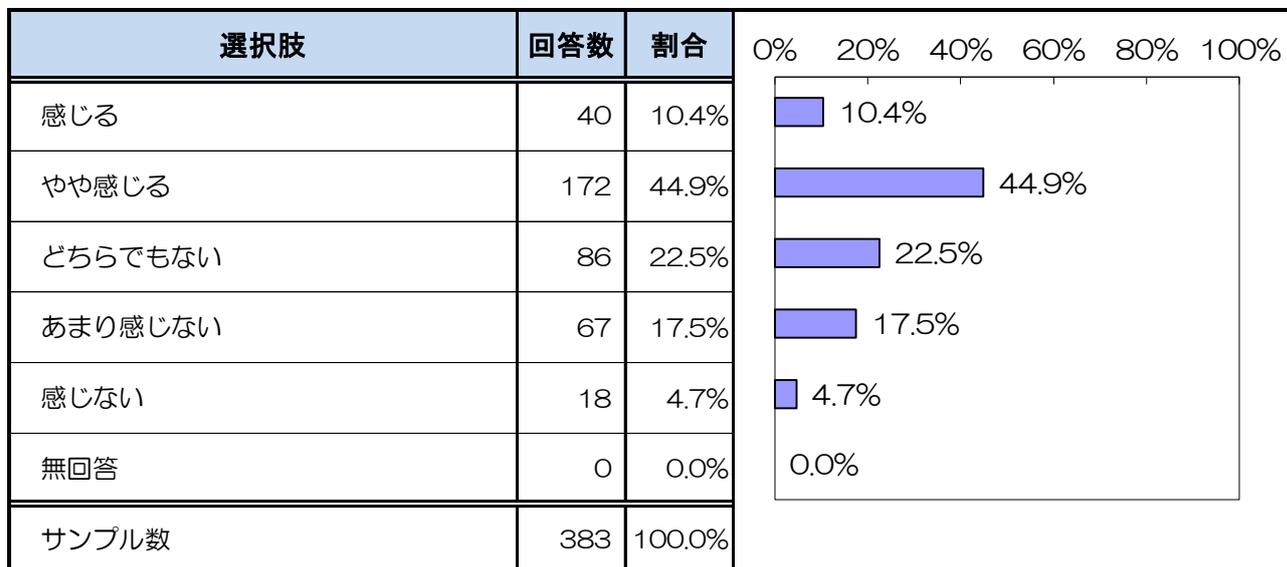
問 29 ネットショッピングによる購入額は、5年前と比べてどうなりましたか。(単数回答)

「増えた」が 49.1%と最も高く、次いで、「やや増えた」の 28.5%、「変わらない」の 18.3%の順となっている。



問 30 現在の中心市街地に魅力を感じますか。(単数回答)

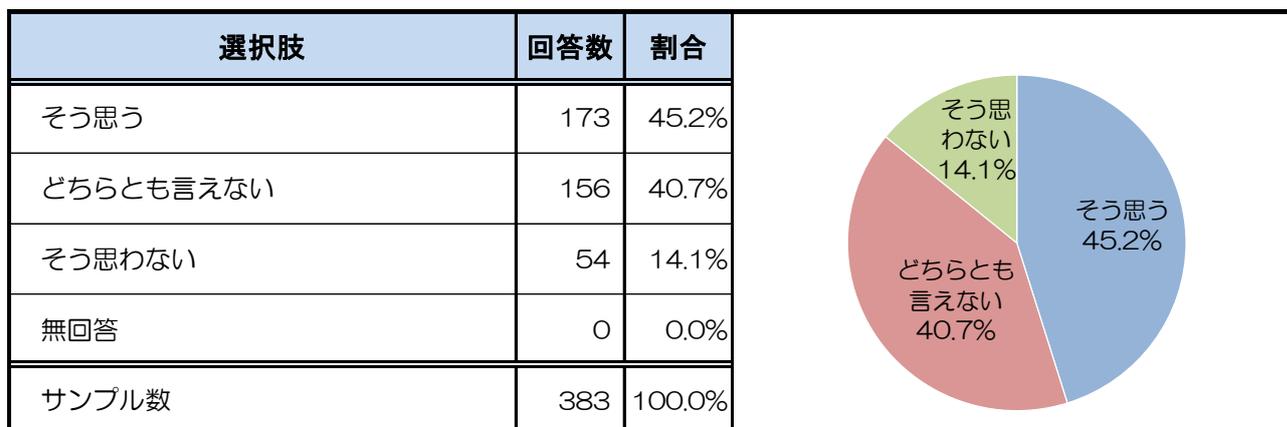
「やや感じる」が 44.9%と最も高く、次いで、「どちらでもない」の 22.5%、「あまり感じない」の 17.5%の順となっている。



問 31 現在の中心市街地について、どのような印象を持っていますか。 (それぞれ単数回答)

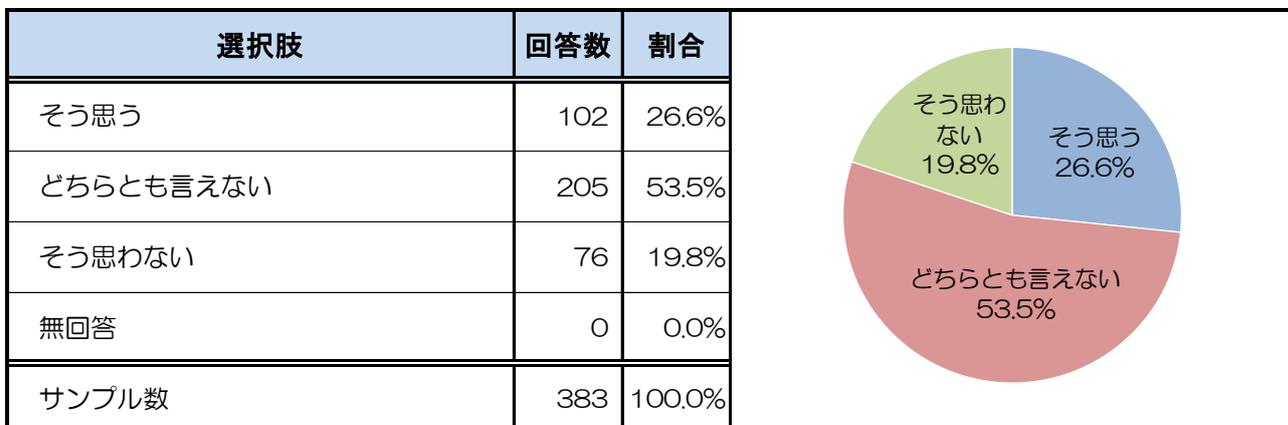
① 魅力のある店舗や飲食店が多い

「そう思う」が 45.2%、「どちらとも言えない」が 40.7%、「そう思わない」が 14.1%となっている。



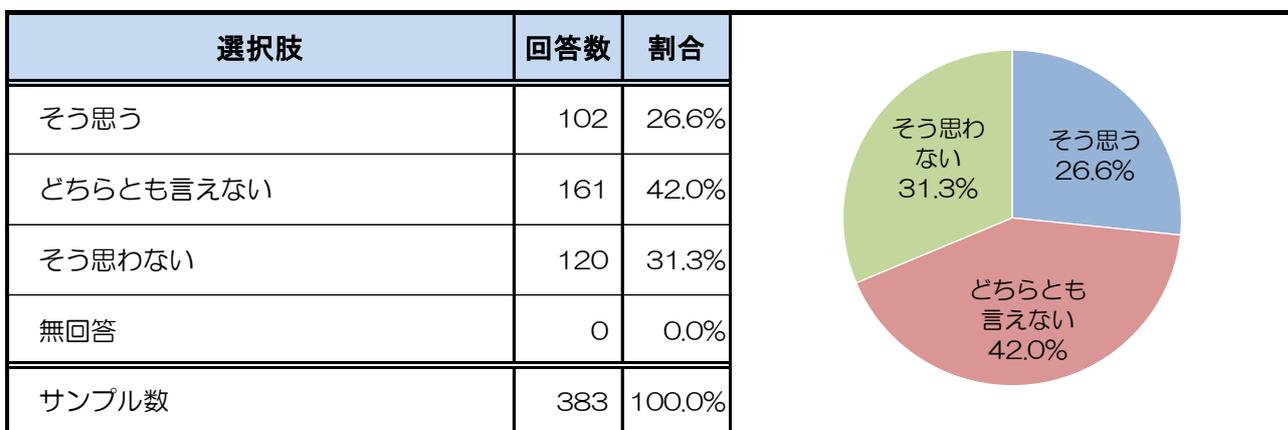
② イベントやお祭りが充実している

「そう思う」が26.6%、「どちらとも言えない」が53.5%、「そう思わない」が19.8%となっている。



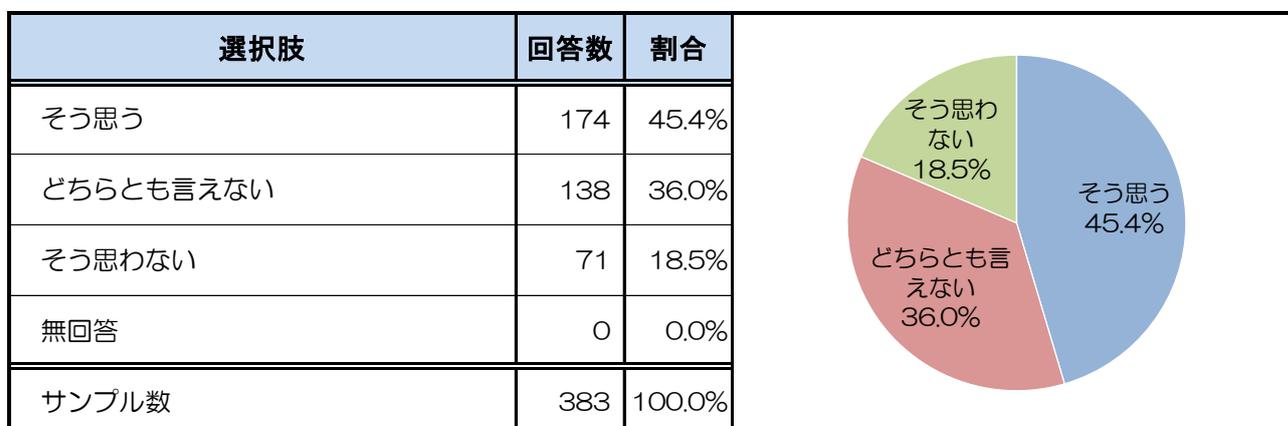
③ 観光客が楽しめる施設や場所が多い

「そう思う」が26.6%、「どちらとも言えない」が42.0%、「そう思わない」が31.3%となっている。



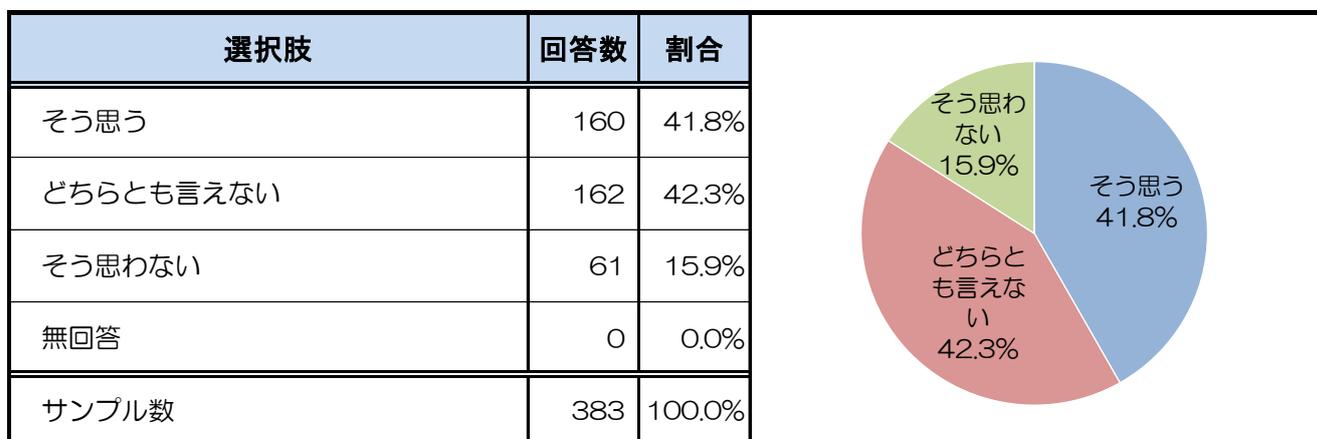
④ 歴史や文化を感じられる

「そう思う」が45.4%、「どちらとも言えない」が36.0%、「そう思わない」が18.5%となっている。



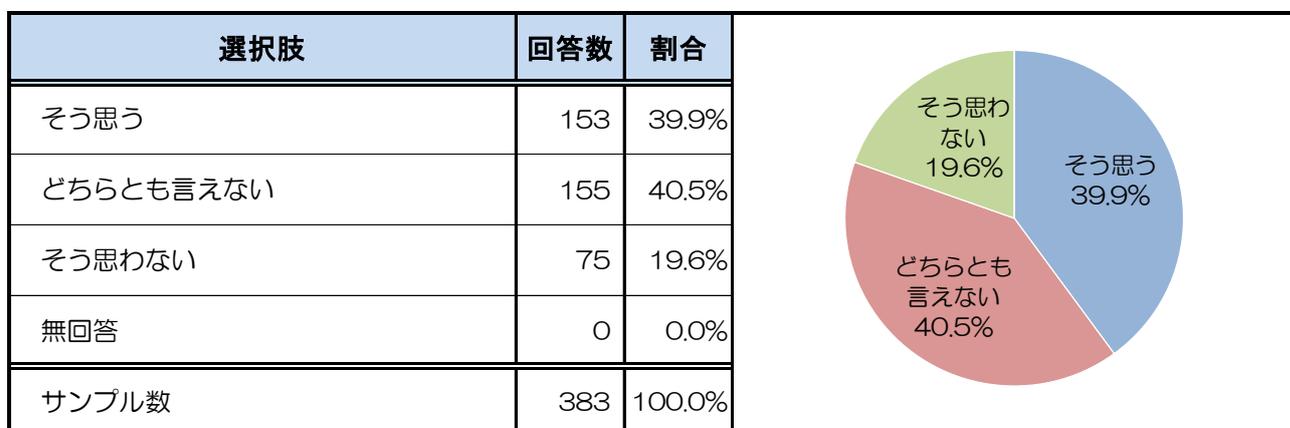
⑤ 街並みや景観が美しい

「そう思う」が41.8%、「どちらとも言えない」が42.3%、「そう思わない」が15.9%となっている。



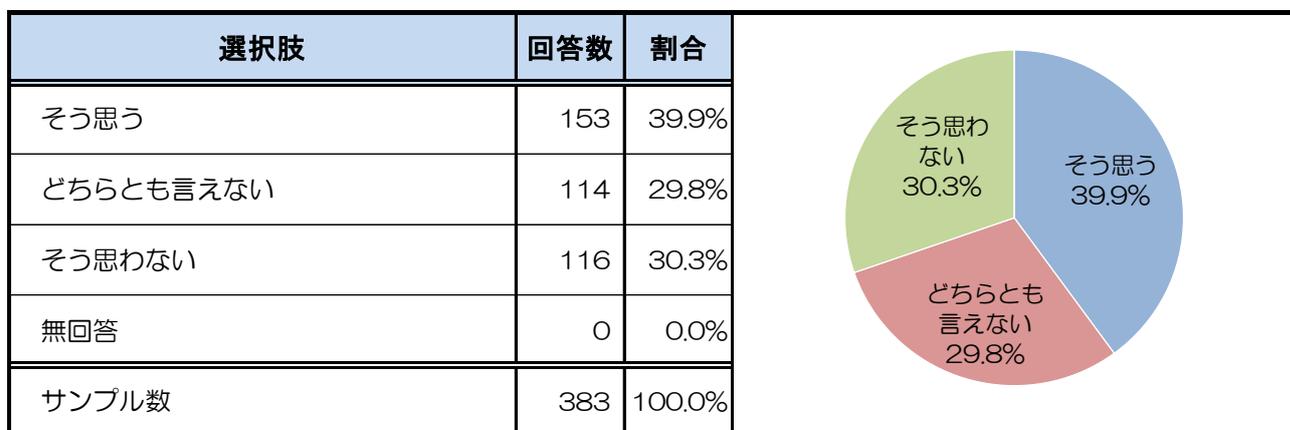
⑥ 憩いの場や花・緑が豊か

「そう思う」が39.9%、「どちらとも言えない」が40.5%、「そう思わない」が19.6%となっている。



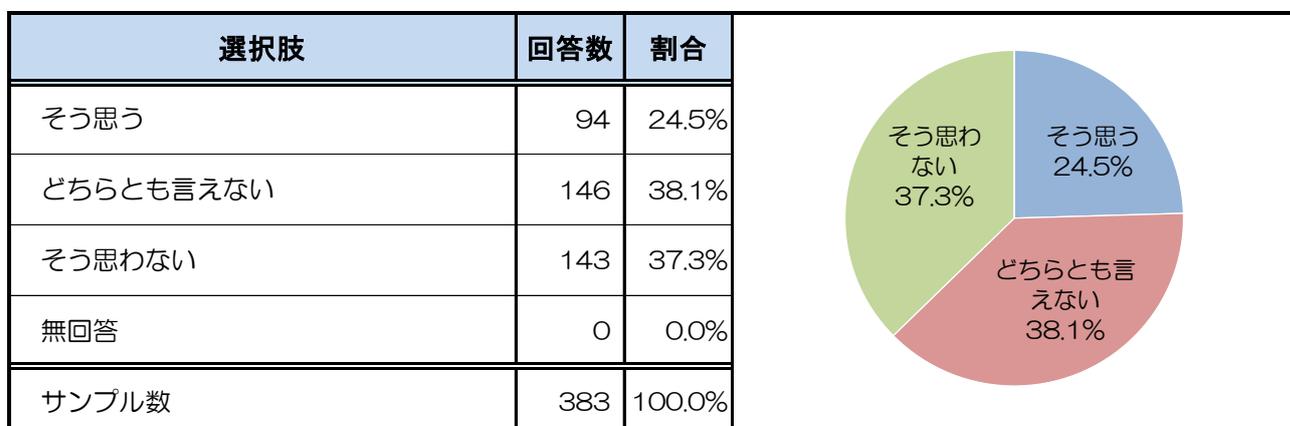
⑦ 住んでみたい (住み続けたい)

「そう思う」が39.9%、「どちらとも言えない」が29.8%、「そう思わない」が30.3%となっている。



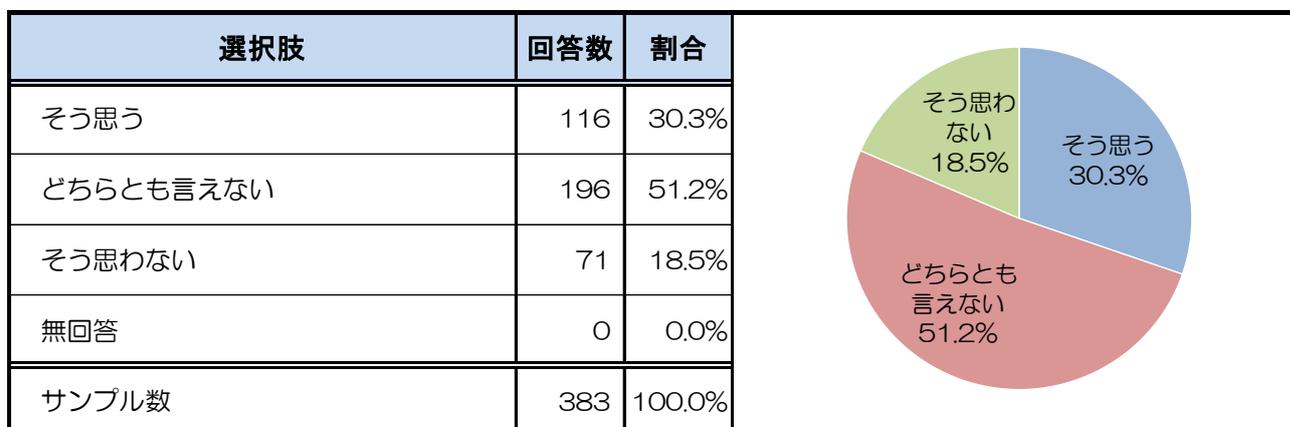
⑧ 娯楽やスポーツが楽しめる

「そう思う」が24.5%、「どちらとも言えない」が38.1%、「そう思わない」が37.3%となっている。



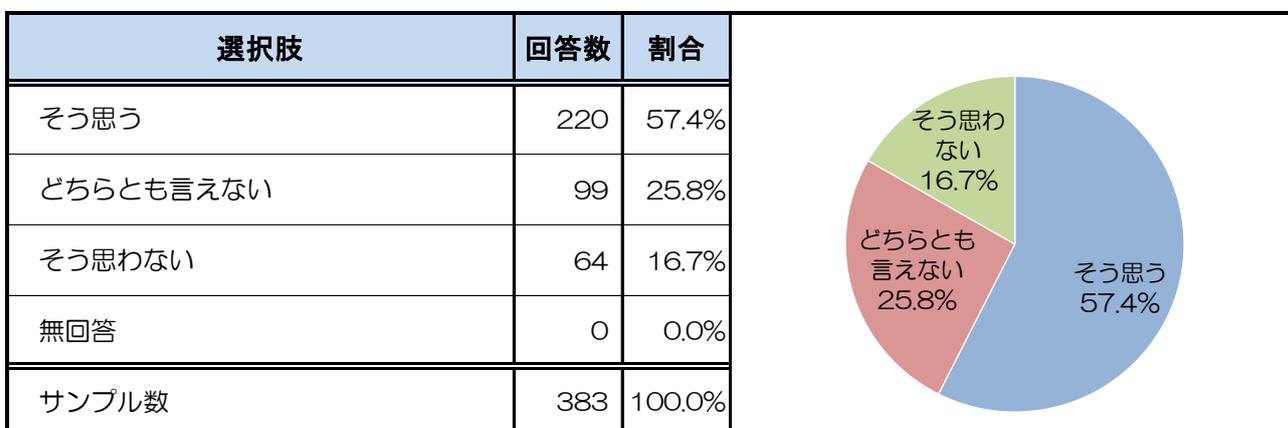
⑨ 雇用の場が充実している

「そう思う」が30.3%、「どちらとも言えない」が51.2%、「そう思わない」が18.5%となっている。



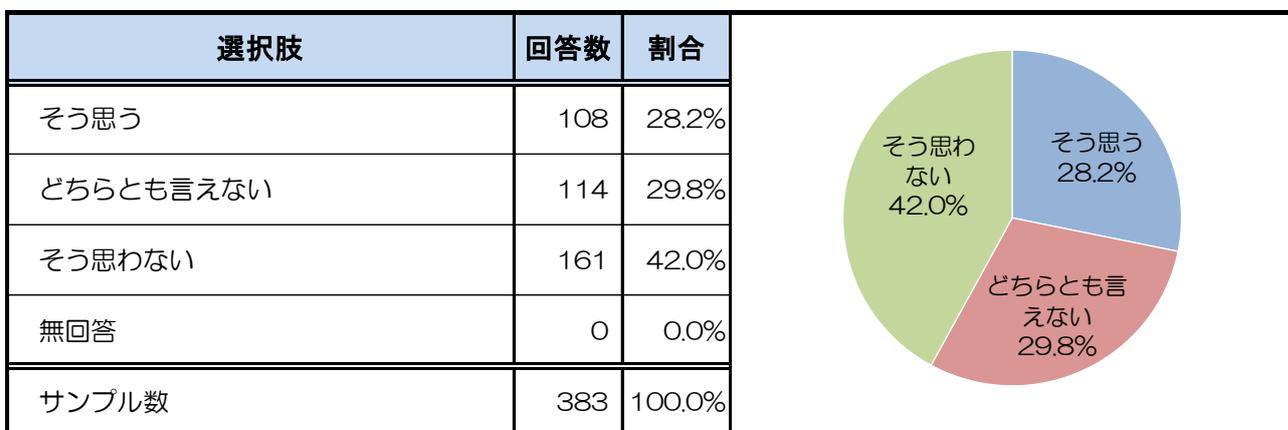
⑩ 公共交通機関の利便性が高い

「そう思う」が57.4%、「どちらとも言えない」が25.8%、「そう思わない」が16.7%となっている。



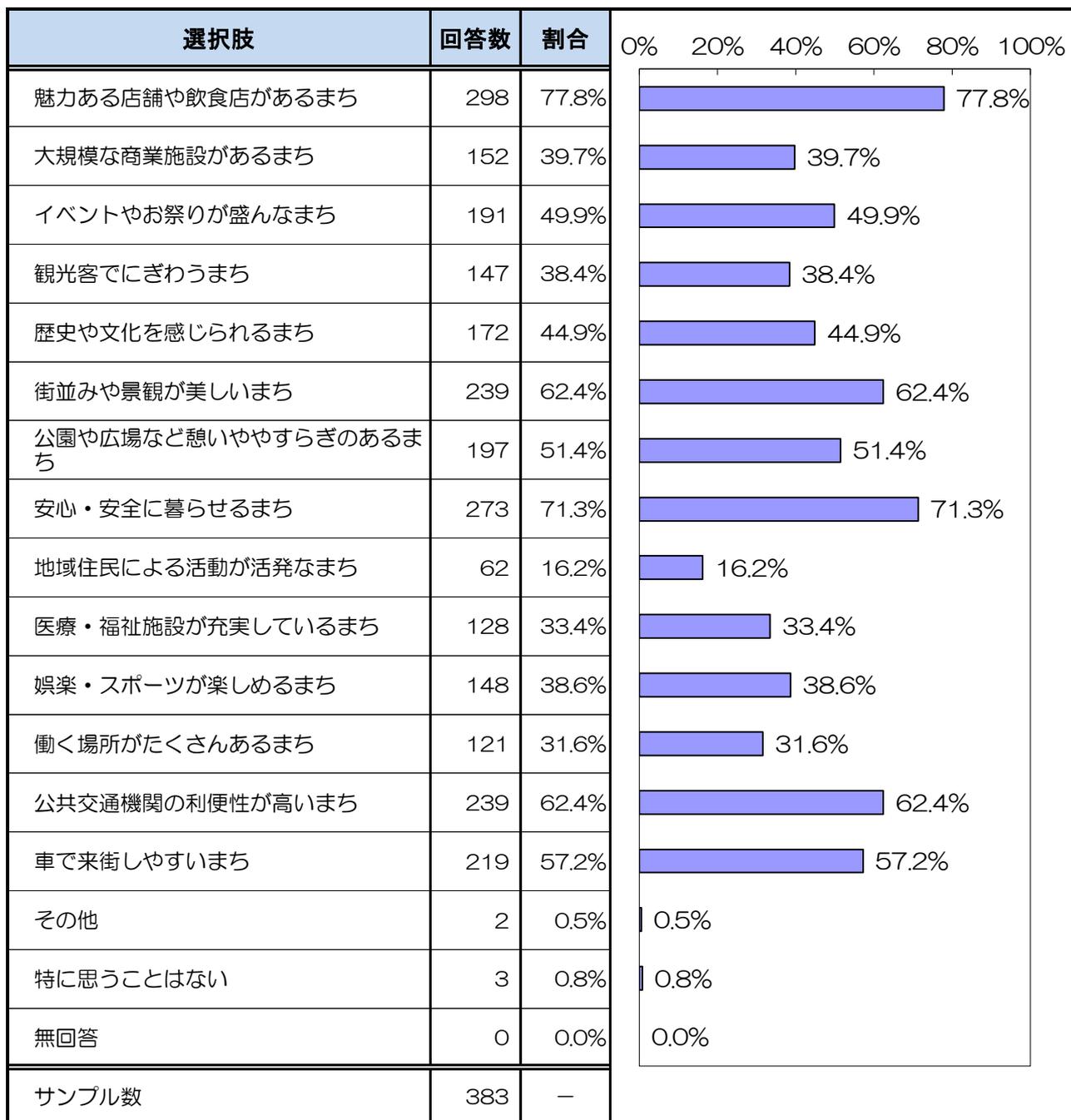
⑪ 車で来街しやすい

「そう思う」が28.2%、「どちらとも言えない」が29.8%、「そう思わない」が42.0%となっている。



問 32 中心市街地はどんなまちであってほしいと思いますか。(複数回答)

「魅力ある店舗や飲食店があるまち」が 77.8%と最も高く、次いで、「安心・安全に暮らせるまち」の 71.3%、「街並みや景観が美しいまち」「公共交通機関の利便性が高いまち」の 62.4%の順となっている。



◆その他の回答 (原文まま)

- ・交通手段が車のため、大きな駐車場がいくつかあれば便利です。
- ・中心市街地公園に幼児、こども向けの遊具をもっと増やし、親子で楽しめる施設を作ってもらいたい。また、土・日曜日、歩行者天国を月に1回位開催し、イベントなど実施すると中心市街地が活気づくと思う

問 33 中心市街地のまちづくりについて、ご意見・ご要望等ございましたら自由にお書きください。(任意回答)

◆回答一覧 (一部抜粋・原文まま)

回答内容	性別	年代	地域
市街地に行きたいと思うには、楽しく、為になるイベント等が欲しいです。今はシニアも元気なので、ターゲットを老若男女楽しめる企画がほしいです。公共機関の利便性が悪く、車で移動が多いですが、でも駐車場が少なく高いと思います。	女	70 歳以上	伊敷
中央駅から天文館、ウォーターフロントまで一体となって魅力的な街づくりをして欲しい。それぞれで街づくりするのではなく一つの街として魅力的な街づくりに取り組んで欲しい。	男	40 歳代	谷山
独身の頃には気軽に中心市街地へ足を運んでいましたが、子どもが産まれてからは、なかなか足を運ばなくなりました。子連れなので車で出掛けたいですが、駐車場の場所や料金を考えると行くのを躊躇い、中心市街地外のショッピングモールに行くことが多いです。また、子どもたちがぐずったときに休憩できる屋内の場所や楽しく遊べる場所が増えれば、大人も子どもももっと足を運びたいなと思うと思います。	女	30 歳代	松元